HQ
1104
J74
No. 454

明治三十年十一月廿五日

女學雜誌

第四百五十四號

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

第四百五十四號目次

◎社説
進取開國の氣概◎女學今後の文政

◎女學
家庭試驗塲
各地工女の狀態(一)
(工女の雇入及誘拐の惡弊◎勞働時間、賃金、契約年限幷に現在人員)
各地女風俗報告集(二)
各地民俗の頽廢、　C．D．生
佛教徒の婦人會(二)

◎評論
慨世夜話

◎教育
教育者慨然として任ぜよ
伊藤侯の教育談◎秋田縣の留學生規則◎秋田山形二縣の學事◎小學女生徒半途退學の原因及救濟法◎慶應義塾

◎隨感
秋の垂示◎紅葉のいのち◎氷川清話◎死を決して氷の如し◎万事不成須責吾志◎團洲左團治の聲樂◎自らは價値なしといふ◎さびしき人の又もあれな◎微笑靜默の友

◎雜錄
本阿彌妙秀尼の逸事談
山あそび　馨泉女

◎時文
露伴子の「ひげ男」(霞山)◎白馬會瞥見(好春生)
芭蕉以前俳諧集◎伊達政宗◎列國變局志◎新著月刊◎日の出島高砂の卷

◎片々◎時報

社告

◎本誌は毎月二回即ち十日、二十五日の兩日を以て發行す
◎十日發行の分は稍や簡易實際を專にし、第一、家庭の整理改善に益ある事項を主として、其他、文藝、史傳、問答等の諸欄に重きを置き、二十五日發行の分は、女學教界に對する吾黨多年の主義を發表するもの。
◎單に十日發行の分のみを購求せんと所望せらるゝものあらば其望に應ずべし

女學雜誌定價表

前金	壹冊價　金拾錢 半年前金　金一圓拾錢 一年前金　金貳圓 (內國無郵稅) 代金は凡て前金の事◎前金切れの節は封皮の捺印に御注意し上早速御送金有るべし
廣告料	一行　一回(廿七字詰)　前金十錢 同　三回以上　一割引 同　六回以上　二割引
送金	爲替は東京本郷駒込郵便支局に宛て小爲替にすべし〇郵便切手にて送る人は五厘切手にて且つ一割増を添ふべし

明治廿七年二月十九日內務省許可
明治三十年十一月廿四日印刷
明治三十年十一月廿五日發行

東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚六百六十番地
發行兼編輯者　巖本善治
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十六番地
印刷者　島保藏
東京府北豐島郡巢鴨村字庚申塚二百四十六番地
發行所　女學雜誌社
東京市牛込區市谷加賀町一丁目十二番地
印刷所　株式會社秀英舍第一工場
(電話本局十九番)

女學雜誌出版書目

櫻井成明譯
腓立比物語
正價金二十八錢　郵稅金六錢

巖本善治著
教育講義
正價金七錢　郵稅金二錢

横山雅男著
婚姻論
正價金十二錢　郵稅金四錢

中島湘煙女史著
小說 **善惡の岐**
正價金十七錢　郵稅金四錢

阿波鳴門左衞門作
戲曲 **桂吾郎**
正價金十錢　郵稅金二錢

巖本善治著
吾黨の女子教育
正價金十錢　郵稅金二錢

若松賤子英文集
巖本嘉志子
正價金六十錢　郵稅金六錢

布川靜淵、小此木秀野合著
俳諧史傳
正價金二十七錢　郵稅金四錢

鈴木弘恭述
百人一首講義
正價金二十八錢　郵稅金四錢

同
文法口授
正價金十二錢　郵稅金二錢

小公子
定價金三十五錢、郵稅八錢

山勢松韻先生
山田源一郎先生
同編

箏曲叢書 第二編 松竹梅

洋装美麗
正價金参拾五錢
郵税四錢
郵券代用不苦

本邦俗樂中高尚優美ナルハ箏曲ニ如クモノナシ唯憾ムラクハ後來完全ナル樂譜ノ制定ナク學習上不便少カラザリシヲ本書ハ編者兩先生ガ此欠點ヲ補ヒ一ハ古今ノ名曲ヲ保存スルノ旨意ニ基キ完全精密ナル泰西ノ樂譜ヲ用ヒ極メテ丁寧綿密ニ本曲ノ旋律及緩急ノ度ヲ指示シ編纂セラレタレバ一タビ本書ヲ繙クモノハ教師ノ指南ヲ要セズ自由自在ニ演奏シ得ルハ勿論箏ノミニ止ラズ「ピアノ」「オルガン」「バイオリン」等ノ如キ樂器ニ至ルマデ自由ニ演シ得ル便アリ希クハ好樂ノ紳士淑女一書ヲ購求セラレンヿヲ

箏曲全書 第壹編 新年

大捷軍歌新唱歌手風琴獨學
び新年松竹梅發行所紙腔琴

本舗

洋装美麗正價金貳拾五錢
郵税金二錢郵券代用不苦
東京銀座三丁目二番地

十字屋

移轉廣告

本社今般都合により
東京巣鴨村字庚申塚二百四十六番地
に移轉仕候間此段廣告仕候也
右に付本社への御用向の方は同所宛にて御差出し被下度また自今雜誌及び書籍代金御拂込みの節は
東京駒込郵便支局
宛にて爲替御取組み被下度候

明治三十年十一月

女學雜誌社

宗教界唯一の婦人雜誌

反省の鏡

一部代四錢五厘
半ヶ年二十五錢
一ヶ年五十錢
但無遞送料

爲替京都六條振込ノヿ

第二年第九號要目

社説
肉食妻帶問題を評す

法話
御待受御消息……赤松連城師

家庭
妻君の不愛相……小泉柳陰
窓張集則
家内の務くさ〳〵(七)……白蝶子
道理と理屈……仙骨子
かたみの菊(小説)……雲脚子

菀録
一言芳譚うつし(つゞき)……蒔田耕夫
筆のまに〳〵……清香庵主
法師のさま〳〵(つゞき)……侶松女史
思ふまゝ……栄香女
去年の晉(つゞき)……石井泡中子
佛教道徳十善さとし(つゞき)……服部月華

彙報
○婦人會○越後長岡女學校以下數件
○雜界○雲上の御慶事外數件

發行所 京都油小路御前通上ル 興教書院

東京麹町區下六番町六番地 櫻井彦一郎

◎◎女學雜誌編輯上の用向並に雜誌及書籍等寄贈の節は右櫻井宛に御差出し被下度候

社會學社會問題及社會政策之評論

日本宗教合併

社會雜誌

毎月一回二十日刊 定價一冊十錢郵税一錢 六冊郵税共六十五錢 十二冊壹圓二十錢

◎本月分より「日本宗教」を合併し大に紙数を増加し材料を精撰し記事豊富紙面に大刷新を行へり要目如左

◎十一月刊行◎第七號

社説 逆勢微言○臺灣及北海道○學國皆兵論○政界の雲行

論説 勞働問題所感(島田三郎)法燈秋語(巖本善治)至誠(戸川殘花)社會學話(布川靜淵)志士の心事(靜淵)監獄視察記(生江孝之)

雜纂 我國の職工法案決定せり○法律の制裁を受くべき工場及製造場○幼年及少年の職工保護○勞働年齢の制限○就業時間の制限○勞働時間と賃銀○歐米諸國保護法比較表

觀勢 農業界の社會問題=土地兼併と投機賣買○勞働社會の形勢○小作人の紛擾○薄給官吏○貧民統計

教界 宗教の保護と社寺法(觀潮花主)僧侶と宣教師との氣質比較(希聲)美事善行の記事(東根)教會組織の變更○宗教家の慈善事業○布教傳道法の相違○福井縣の宗教界(永井一之助)佛耶兩界の近事○宗教論壇○社會論壇○其他彙報十數件

◎本號より大改良を行ひたれども定價は従前の通り唯郵税五厘を増したるのみ改良後の紙面如何に光彩を放つかを見よ

一手販賣 東京麹町區下六番町六番地 社會雜誌販賣所

高等師範學校音樂教官 鈴木米次郎氏 纂

新式唱歌

一名トニックソルファー

正價廿五錢 郵税四錢 郵券代用不苦

本書ハ鈴木先生ガ多年附屬小學ニ於テ實驗セラレタル斷新ノトニックソルファー唱歌教授法ノ順序方法ニヨリ新タニ編セラレタル唱歌集ナリ此方法ハ從來風琴ノ音ニヨリ1 2 3等ノ數字ニテ摸擬的ニ唱歌ヲ教ユルト異ニシテ一箇ノ音ヨリ自然ニ且ツ自發的ニ唱歌セシムルモノニシテ我國ノ如キ音樂幼稚ノ今日ニ於テ實ニ適好ノモノトス斯道ニ志ス方并ニ教育ニ從事サルヽ方ハ一唱以テ本書ノ全ク新式ナルコヲ知ラレンコヲ

大捷軍歌新唱歌手風琴獨學ビ新年松竹梅發行所紙腔琴本舖 東京銀座三丁目二番地 十字屋

日本の家庭

毎月一回(十五日)發行◎一冊價金六錢◎半ヶ年分(六冊)代金三拾六錢◎一ヶ年分(十二冊)代金七拾錢◎總て郵税なし◎爲替振込牛込局

第三卷第五號 十一月十五日發行

口繪 宮詣の圖 挿繪 大小十餘 社説 兒女をして獨立自治の心を有たしむべし 史傳 青侍某が妻楓女 小説 うてぬ緣(續)…不二山人 教育 處世教草(四)…鶴峯翁●面白誌(續)…蕣天●家事 馳走の本意…林恕哉●流行物●辛饅頭…山川高清 火事の注意●東京の生活費●だいどころ料理等 雜錄 明倫和歌集抄講義(續)…經營生●隨感錄…佐藤まさ子●當世えせ物語…星川乘搓●和歌●黑髮…松嶺俊●新刊紹介等

發行所 東京牛込區新小川町二丁目四番地 日本の家庭社

女學雜誌　第四百五拾四號

明治三十年十一月廿五日發兌

社説

進取開國の氣概

人誰か目前直接の痛みに苦まざらん。困厄近く襲ひ來り、不快憂愁、吾が一家一身を圍繞することなどあらんには、當惑苦心して則ち精神の萎靡を來すは免かれざることなり。惟ふに今や一世逆境に陷り、人々皆不利の運に立てり。損害を蒙ることに多少の別はありと云ふと雖ども、大凡そ幾分の難を受けざるものは未だ曾て有らじ。四面楚歌を聞きて、馬進まず。事業、意志と違ひて、悶々として平ならざるもの蓋し太甚だ多からん歟。今人の今時は眞に落心の秋なるべし。

然りと雖ども、試みに一身利害の痛痒を忘れて、暫らく維新革命の大精神を追懷し、昔し幾多の傑士汗血を流して王政復古の偉業を成就せることを憶出し、西郷先生及び大久保甲東等が如何に慘憺たる經營に終生を托して、遂に國事に一身を倒したるかの赤情を回顧すれば、今にして帝國の命脈を負擔しつゝある今時の男女は、苟且にも惰弱たる薄心の故によりて徒らに憂愁に日を消すこと能はざる所以を覺らん。

夫れ、帝國は、英聖文武の皇帝陛下治し召す大御國にして、治盛一に其の御稜威に由ると云ふと雖ども、臣民の責め豈に亦輕しとせんや。吾等双肩に其の榮辱を擔ひ、手足を投じて、其の進行を推す、邦家の盛衰は吾等の任に非ずや。宇宙荒漠たり、四海茫々たり。獨り吾等生を斯土に享け、亦た此時に際會す。國土の大小と、文明の先後と、時の順逆とは問ふ所にあらず。たとひ之を祝すべきも、もしくは悲しむも、以て吾等と帝國との關係を厚薄するにあらず。吾等は嚴然として帝國を負へり、其の榮名と隆盛とは則ち吾等が任にあらずや。

惟んみるに、維新改革の事業未だ半ばにすら達せず、規摸中

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

途に縮小して、抱負央ばより挫けたり。之れ豈に吾等の堪ふる所ならんや。南洲甲東の靈、惨として為す無きに哭せんか、幾多勤王の亡魂激悲して彷徨せんか。吾等何んすれぞ久しく先輩の恨思を苦しむるとを為さん。

夫れ一時の利不利は人生の常態のみ。數年の逆境、奈何んぞ意とするに足らん。盛んに經綸して大ひに奮はゞ、金石尚ほ透ほすべく、魔神尚ほ斥ぞくべし。何ぞ區々たる少時の落心に關せんや。

大凡そ、死の時は即ち活の時、困厄の機は乃ち奮興の秋なり。水流究まりて亦通じ、一路了りて大道開擴す。意志の激する所、何處にか進路なからんや。人身五尺の躰、小菌も尚ほ之れを殺すべく、天地をも尚ほ包容すべし。要は奮ふと奮はざるとにあるのみ。堂々たる日東帝國、世界に宣言して王政の復古を告白せり。大業未だ成らずして奈何ぞ萎靡として退轉せんや。

夫れ、維新革命の大業は、帝國の老幼男女が均一に負擔する所の公大なる職役なり。何人も皆な奉公獻牲の忠を滿たらし、簡易勤儉の約を守り、盛んに猛進して苟くも固息因循の俗膓あると莫れ。

恭やしく惟んみれば　陛下曩に万國に宣言して其の大御心を述べさせ玉へり。復古の王政煥乎として顯現せざれば、榮辱の及ぶ所、夫れ何處ぞ。子民たとひ寶庫を豊かにし、家庭を樂しくすとも、吾皇の榮辱を思ふて恬として安んずるとを得る乎。勅宣儼として四海に照れり、帝國の志業、天下に知らる。同胞子弟豈に惰弱たるを得んや。

蓋し今は逆境の秋なり。而も之れ豈に當局者の責のみならんや。實に同胞皆な一樣に任ぜざる可らざるの責なり。抑そもたとひ責むべきの人ありとするも、之を責むるとを為して而して回治するとをせざる時は、はた何の功あらんや。寧ろ如かず、上下同胞皆な一齊に興奮し、各自其責を盡し、盛んに奉公の大義に拮据して、速かに國運をモヽソン山の高きに致し、其安きを太平洋の靜寧に歸せんには。

秋風落寞として枯葉窓を打ち、孤雁飛鳴して哀を催す。人生の恨思今にして熾んなる哉。然りと雖ども、超脱樂天の趣味を外にして、別に現世當前の大義を思はゞ、帝國方今の急務、殆んど冷膚をして沸燃せしむ。亦何ぞ閑寂を貪ぼるとを許さ

んや。

語ばを寄す海内無數の吾が同胞よ。たとひ一家一身の困事今や少なしとせず、事業目前の利害、心を惹くもの多しとするも、暫らく慷慨の氣に腸を托して、獻牲奉公の熱血に温まり、眼前私利の局促を忘れて、盛大に思慮せよ。進取開國の大業豈に忽諸に附し去ることを得べけんや。

女學今後の文政

論者往々文部大臣の交迭を列擧して、文政の變化極まりなきを慨し、もしくは其の二三を比較して、某は何々主義を把れりなど、評す、愚も亦た甚しからずや。幾多の交迭は只だ內閣の都合のみ。幾變遷の主義は時勢の影響のみ。畢竟、他動にして自動にあらず、所詮は、民情推移の反映に過ぎざるのみ。吾人これをもて現文部大臣の施政の大躰を測度するに難からず。就中、其の女子教育に對する意見と設計との如き聞かずして知るべきのみ。嗚呼、誰か今の高等女學校時代に反くことを得んや、只だ附加して薪を添ふるに在る耳。

女學

家庭試驗場

元氣あれば薄衣にても風も引かねど、心弱き時は、厚着を仕ても尚ほ侵され易し。人の一身は、心の持やう、氣の引立やうにて如何にとも爲るものゆゑ、万事の根本は心にありと覺悟し、何事をするにも、氣を爽かにして、活潑にせざる可らず。

女が受持の家庭の仕事は、申さば、人生第一、變化なきの仕事なり。朝起ては、湯を沸かし、飯をかしぎ、下女に命け、下男を走らせ、膳を出し又片づけ、洗ひ又ふき、小供に泣かれ、ねだられ、うるさく附廻られて、同じ事を言ひ、布團を布き、臥を立て、明日のお菜を考ふるなど、朝たより夜半に至るまで、日として同じ事を繰返すに過ぎず。

變化は氣まぐれにて、少しは面白きこともあるものなれど、一年三百六十五日、一つ事を繰返し、同じ人を相手にし、同樣

の心配をして、日輪が登れば晝と思ひ、月が登れば夜と思ひ、三十日立てば一月すみしと思ひ、指を屈へて一年一年と只だ日を送るのみにては、人の一生涯も無意味極る如く、女は何故に生れしものぞなど、ふと思案せらるゝ折もあるなるべし。

旣に斯樣に思ひ僻めては、人の一生は唐臼の上り下りするか、水車の一度一度廻るとひとしく、只だ度數を重ねて日を送ると云ふの外、何の意味もなきことゝなり、自分で考へても馬鹿らしく、浮世が辛氣くさく、自分が居ても居なくても同じとにて、たとへばお三が代りをしてくれても不都合なきほどに思はるゝならん。之れを自暴自棄と云ふ也。

凡そ何事にても心にとめて確と覺悟せざるときは、皆無意味の事となるなり。聖人の書かれたる本に向ひても、只だ其の一枚々々を開ける計りにては、白紙も塵紙も同然なるべし、たとひ一軒の家庭の仕事なりとも、心せで繰返し繰返す時、無意味、無趣味と思はるゝやうになるは、當然の事なり、何の不思議あらん。

然し乍ら、主婦たるものが、斯る軟弱の心掛にては、其の家を破らんとの遠からざるは申す迄もなく、さて〳〵女と云ふものゝ義理にかけて申し分けなき怠慢ならずや。况んや一度女學校にでも在りたらんものが、萬一にも斯る怠け根性ありたらんには、第一、其の學問に對して何と申し開きが出來べきや。

小くとも狹くとも一軒の家庭なり。主婦となりて之を支配し全權を托せられて、其の切り盛りを爲す時に當りては、事旣に容易ならず。上が上にも、下が下にも、心の配り樣、氣の着け樣に際限はある可らず。日々其の處置振りを工夫して一一慘澹たる經營を施さんとせば、一の小家庭と雖ども、身を終る迄で苦心勉强の必要はある可し。いつが何時とて心をゆるして、之でよしと思ふことの出來べき時あらんや。大事は大事、小事は小事と夫々の苦心あり。人間の心を添ふべき事柄に何れおろかの放擲あらん。一心をこむれば、如何なる仕事にても、日足らず才亦足らざるの難問題が充滿し來るものなり。

夫れ故、小さき家庭なりとも、こゝを家政學の研究塲、又は家庭の試驗塲とも心得て、種々に工夫して色々に法方を廻ら

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

すときは第一本の仕ひ方、雜巾一度のかけ方にも、千種万様の試驗を施し、之と云ふ良結果の目途の立つ迄には、半年一年の心がけを要するならん。

此の覺悟にて、家庭に處置すべき惣べての仕事の最良方と云ふものを會得せんと勉めなば、學力ある主婦の一生を費やすとも尙ほ日の足らざるとを發明すべし。之を奈何んぞ、只だウッラ〳〵として、家庭の事變化なしなどゝつぶやくや。勘辨なく、思慮なき人の眼前には、何事も意味なきものとなる。よしんば愉快絶頂の面白きものを見めすとも、尙ほ感ぜざるべし。之れ其の心の鈍き故なり。

左れば、女學生の嫁して主婦となりたる人などは、深く此邊に戒しめ、家庭日々の細務に心をこめて、一々其の工夫に勘辨し、コヽを試驗塲と心得て、天下第一の家庭術を案出するの意氣込あるべし。此の意氣込あれば、惣べての細事皆な活き、日夜の仕事すべて女學の材料たるべし。斯して一軒の家庭に試驗し得たる良方が四方に傳へられ、日本千万の戶口の家庭之によりて改良せられなば、其の事業小さしと謂はんや。主婦は只だ小さき一家の內に居ながら能く滿天下の家政を改良し、以て國政の基礎を健全にするものと云ふべし。其功績も亦た大いならずや。

某女史、今まカウモリ傘の扱かひ方を試驗中と聞く。之を取り置くに、袋に入れたるが善きか、袋は何が善きか、抑も、折り目のつかぬ爲めに束ねずに吊すが善きか等の試驗は既に了り、其の塵を拂ふに、ハタクべきか、水をかけべき乎、天雨にあてべきか等を比較しつゝあり。

某女史亦た、種々のランプに色々に石油を入れ、火の出し方を樣々にし、烟筒を長短にし、火口を取換などして、逓りに油の入り方に試驗しつゝあり。

凡そ此等は事の尤とも瑣末なるものなれども、心をつくれば幾多の問題あり。之より以上の他のいろ〳〵の家政に關しては、硏究すべきとの澤山なる亦た言ふとを待たじ。女學に心がけあらん人は切に注意すべきとにぞある。

さらぬだにひまゆく駒のとまらぬを
誰がむちあてゝ斯くは速からむ

勝安芳

各地 工女の狀態

（其一）

比年工業頓に勃興するにつれて、工女の需用日々に增加し、爲めに下婢の拂底は、何處ともに一方ならぬ有樣なるのみならず、工女さへも頗る欠乏して、爲めに關西地方の諸會社にては、誘拐爭奪などの不正の怪事さへ行はるゝに至る。狀態如斯なれば、去年の頃より、工女問題なるもの、識者の念頭に懸り居り、工女教育如何などゝ唱ふるものも稀ならず。工女教育は、素より大切至極の問題なれども、今日の有樣を觀察すれば、教育は扨て置き、工女の使役幷に其風儀等、甚しく寒心すべきの事實多く、是が矯正策は、當に勞心を要するの次第なり。此節世上に噂高き、職工條例なるもの、若もいよ〳〵制定せらるゝ事とならば、從つて工女の取締上にも、嚴密なる規律を設けらるべければ、現在の悪風も、必ずや改良せらるべき節あらんも、何にせよ、かゝる事は、工業者の道徳先づ進步して　職工を良導するに非ざるよりは、嚴法なりとても、中々に効能あり難きなり。

工女の現態は、一般社會より見て勿論、殊に婦人社會より見て、甚だ注意すべきことなれば、今爰に聊か、●●●時事新報特派員の報告などを參照して、其狀態を畧示せん。而して東京に於ても、鐘ヶ淵紡績會社幷に印刷局の如き、數百名の工女を使役せるものあり。前者の如きは、一時は、其使役上に就きて、善からぬ風聞を立てられたることもありたれども、流石は輦轂の下にあることとて、今日にては、取締も可なりに行屆きたるが如く、また東京の各種の工女に就いては昨年夏期の本誌にも載せ置きたるが如し。然るに、一旦地方に出づれば上州野州信州の如き機業養蠶地方にては、中々に容易ならぬ珍事怪狀尠からず。關西地方殊に大阪の如きは國中最も工業盛大の地にして、製造會社の煙筒林立して、數百千の工女こゝに集り來れるありて、而して商人は征利唯思ふの狀態なれば、自然取締甚だ緩怠に流れ、風儀また大に亂る。現に內務省の如きも、新聞の報道に由りて苟且ならぬ珍事の、工女使役上に行はるゝを見て、府廳に紹介して、嚴に其探索を命じたりとさへ聞く。されば今工女使役の狀態と、其慘狀惡風共に寒心すべきものとに就ては、先づ之を大阪に就て伺ふべきなり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

されど以下序を追ふて其狀態を畧述するに當りては、大阪以外の關西諸種の會社をも參考するとゝなせり。

◎工女の雇入及誘拐の惡弊

今や工女拂底の有樣なれば、關西の諸會社の如きは、特に其雇入に苦心せるものゝ如く、現に昨年の如きは、神戸なる鐘が淵紡績會社支社と、關西諸紡績會社同盟との間に起りたる爭論の如きとすらあり。されば其雇入方法は、自ら尋常一般の手段に非ず。甚だしき不正の所業の其間に存するあり。大阪某紡績會社の如きは、一年千万金を放出して、雇入運動費となして、其多くは惡漢の手によりて支出せらるとぞ。關西の工女其多くは近隣の地方より出で、特に岐阜地方の如きは、比年水害の爲めに、農民生業を失つて、窮困一方ならざるに乘じて、諸會社派遣の惡漢等、父兄に陷すに利を以てし、女子を欺くに、都會の氣樂にして、花見、芝居、美食等心の任なるよしを以てして、無智なる父兄をして、苟且ならぬ契約證書に盲印を捺せしむると、女衒の遊女を買い入るゝの手段に異ならずして、人の愛子を誘拐して去ると、頗る行

はるといふ。たゞに同地方のみならず、工女雇入れの惡手段は何處共に同じくして、名古屋紡績會社の一工女、岡山より來れるもの、其狀を哀訴するに、其會社員の募集に應じて、同地に來るの途中、大阪にて芝居見物、料理屋の馳走など、こは夢かと許り喜びしは、實に一時の喜夢にして、覺むれば忽ち苛酷の使役を受けて、小遣金さへ碌々に渡されず、旅費芝居見物費、料理屋割前等の前借をいひ立てられて、たゞ悲泣するのみと語りたるさへあり。或はまた大阪見物と稱へて、分別なき娘、時には良家の女子をも、父母の目を忍ばせて誘出し、車に推載せ、船底に隱して、誘拐し、身裝を變じ、姓名を詐りて、工塲に苦役せしむ。而して父母は愛子の失踪を嘆じて百方搜跡すれども多年之を獲ざるの事あるありといふ。此聖代、法立ち、政行はれ、人權安きを旨とするの時に當りて、如斯く、恰も奴隷賣買に似たるの惡事公行するあり。吾人は當路之を制するの法、未た確立せざるを怪む。然れども會社員に至りては、素よりこの惡行あるなきを辯ずるものにして、其云ふ處を聞けば、工女はいづれも貧家のものなれば、雇入契約の際、多くは五圓十圓の前借を請求する

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

より、情を酌んで、これを貸與すれば、來社後數日にして逃亡するものもありといふとあり。左樣なる場合も尠からざるべきも、彼悪聞に就きては、これ悉く信ずべからずとするも、なほ會社は其實に任ぜざるべからず。

たゞに素人を誘拐するとありと聞くのみならず、また他會社の工女を誘拐奪畧するとあり、昨年の鐘か淵支社の失敗の如きも實に之が爲なりしといふ。其狀を聞くに、或は利欲を以て、或は淫欲を以て、之を誘ひ、または悪漢をして途に之を要せしめて奪はしめ、而して大阪の如きは、工業會社の多くは、密室を設けて誘拐せる工女をこれに監禁して、之を失ひたる工場より來る搜索者を欺くとをなし、時には監禁久しきに亘るが爲めに、空氣の流通悪しきより窒息して、悲鳴を擧げ、往々死に瀕するが如きとありといふ。また誘拐逃亡を拒がんが爲めにも、博徒を置き、ピストル、棍棒等の兇器を備ふると、大阪各會社共同樣にして、殊に大阪紡績會社の工業部の如きは、人之を許して博徒組織なりといふに至る。

◎勞働時間、賃金、契約年限幷に現在人員

今左に、最も多數の工女を使役する紡績、製糸、織物三種の工業を營める關西地方十四の會社に就きて、工女の勞働時間、賃金、雇入契約年限幷に現在人員を示さん。

○紡績會社の部

◎名古屋紡績株式會社

勞働時間　晝自午前六時至午後六時　夜自午後六時至午前六時夜業は十日目毎の交代なり、毎日の休憩時間は晝食時間三十分間なり。工女外出は毎六の日の外に同社規定の休業日に於てす。

賃金　普通女工九錢乃至十錢(普通男工は十七錢乃至十八錢)優等女工二十錢乃至廿五錢(優等男工は四十錢乃至四十五錢)
此外賞與の割増法あり

年限　契約三ヶ年

◎三重紡績株式會社

勞働時間　自午前六時至午後六時、休憩時間を除きて十一時間
夜業も亦之に準ず。
休業日は三大節孝明天皇祭歳末四日年首三日、並に毎日曜日

賃金　通常日給　一等　自三十錢至二十五錢　二等　自二十四錢至二十二錢　三等　自二十一錢至十九錢　四等　自十八錢至十六錢　五等　十五錢以下十等に至る一錢宛の遞減。(男工は平均八割半の高額なり。)
早出、居殘は一時間毎に本給の十分一を増す、外に勤怠の賞罰あり
年期工女は之を寄宿舍に入らしめて、宿料は會社之を負擔し、毎月相當の手當の外に夏冬二期に工場制服各一領宛を給し、滿期の後は左の割にて一時に給料を支給す

	三ヶ年契約	一ヶ年繼續	二ヶ年繼續
甲	百圓以下 三十圓以上	百三十圓以下 四十五圓以上	百六十圓以下 六十五圓以上

乙	三十圓以下 二十五圓以上	四十五圓以下 四十圓以上	六十五圓以下 六十圓以上
丙	二十五圓以下 二十圓以上	四十圓以下 三十圓以上	六十圓以下 四十五圓以上

年限　契約三ヶ年以上
現在人員　一千名(寄宿)

◎伊勢紡績株式會社

勞働時間　前者に同じ
賃金　日給平均十二錢五厘
早出、居殘の增額前者に同じく、勤務增額あり。
年限　契約三ヶ年
現在人員　百二十人(寄宿)

◎大阪平野紡績株式會社

勞働時間　晝夜各十一時間職工を甲乙に分ちて午前六時午後六時ごとに交代し、一週間毎に甲乙晝夜交代す
休憩時間は一日三回合計一時間
休業日は一週一回及び年始三日間年末二日乃至三日間、節分、盂蘭盆會、春秋運動會、鄉社秋祭其他各一日間、夏期氏神祭三日間、三大節
賃金　最高日給二十七錢(男八十錢)最低四錢(男女共)平均十四錢九厘弱(男二十一錢五厘弱)
現在人員　千六十四人(寄宿通勤共)

◎大和郡山紡績株式會社

勞働時間　自午前六時至午後六時　夜業あり、
休憩時間九時三時に十五分宛、正午二十分
賃金　日給七錢以上二十八錢以下(男工十六錢以上六十錢以下)
居殘は十分の一割增、賞與法あり

◎大阪日本紡績株式會社

勞働時間　他會社に同じ、但し休憩時間三回三十分宛
賃金　日給三十五錢以下九錢以上平均十八錢五厘(男工七十錢以下十八錢以上)割增法他に等し
年限　契約三ヶ年
現在人員　六百五十一人(寄宿通勤共)

○製絲會社の部

◎靜岡製絲合資會社

勞働時間　日出より日沒に至る平均十四時間
休憩時間は晝食三十分間
賃金　優等以下十二等に分ち糸量十匁に付優等四錢內外
年限　契約五ヶ年

◎三井名古屋製絲所

勞働時間　自午前五時五十分至午後六時　十一時三十分間
賃金　日給二十五錢以下五錢以上勤務增額法あり、
年限　養成女工五ヶ年、熟練女工二ヶ年
現在人員　四百五十人(寄宿通勤共)

◎三井三重製絲所

勞働時間　前者に同し
賃金　月給優等工女七圓以上九圓、一等工女四圓以上五圓、二等工女二三圓、三等工女一二圓別に賞與法あり
年限　契約五ヶ年

◎伊勢室山製絲所

勞働時間　自午前五時二十分至午後五時三十分　十一時間
休憩時間二回合計一時間
賃金　日給自十五錢至二十錢(半期拂)此外各工女に一ヶ年五圓以上三十圓以下の賞與をなす
年限　養成工女にして七八ヶ年繼續し、婚儀の際に至りて去るを通例とす。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

現在人員　七十名

◎京都第一絹糸紡績株式會社

勞働時間　自午前六時至午後五時三十分　十一時間

休憩時間は晝飯時四十分間夜業亦之に準ト一週間毎に交代す

賃金　日給十四錢以上三十錢以下賞與法規定あり

年限　契約三ヶ年及五ヶ年の二種

○織物會社の部

◎京都織物株式會社

勞働時間　普通十二時間目下自午前六時三十分至午後八時

休憩時間晝飯時三十分間

賃金　日給二十五錢以上五十錢以下（男工一圓内外）増給及賞與法あり

年限　契約三ヶ年繼續二ヶ年

現在人員　六百名（寄宿通勤共）

◎京都紫野織物合資會社

勞働時間　自午前六時至午後六時休憩時間は前者に等し

賃金　日給十二錢以上四十五錢以下（男工二十五錢以上七十五錢以下）賞與法あり

年限　契約三ヶ年

◎大阪金巾製織株式會社

勞働時間　自午前六時至午後六時　十一時間　夜業之に準ず

休憩時間三回通して一時間

賃金　日給十六七錢（男工二十二錢）賞與法あり、

年限　契約三ヶ年

◎名古屋製織合資會社

勞働時間　自午前六時　夜業至午後十時　一定の時限なく夜業は女工の任意なり。

賃金　瓦斯織一反織賃自十八錢至三十六錢玉糸一反自三十八錢至六十三錢賞與割増法あり。

現在人員　百名（寄宿）

各地女風俗報告集　（第二）

各地民俗の頽廢

C・D・生

交通の使四方に開けて、都會淫靡の風、地方諄朴の民俗を惡化し、事業の發達にしたがふ富の分布は、次第に人民の生活の程度を高めて、奢侈に流れしめ、今や我國内到る所、民俗頽廢の實證を擧げざるはなし。此頃時事新報地方事情の調査を報告すると頗る詳密なり。今其中に就きて、民俗頽廢の事實の、吾人をして三嘆せしむるものを拔粹し來りて、警醒戒心の資となし、かつ、凡そ風俗の頽廢なるものは、いづれも世俗と多少の關係を有せざるはなく、而も以下示すが如きものは、いづれも我社の婦人社會學研究に關して、大方の調査報告を求めつゝあるものゝ一端なるを以て、之を各地女風俗報告集第二として、茲に揭ぐる所以なり。

◎函　館

同地は外國の船舶往來繁き處とて、其船員をして外妾を需用

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

するど多きより、如何なる醜女も、榮耀に其日を送り、一般に婦女は威張り居れり。また下等社會の夫婦世帶の表面は、同居體の二枚名札を掲げて、其夫他行をなしたる留守中に、他に一人豫備の間夫を引入るゝの類多けれども、一般の風習として本夫も之を知りて咎めずといふ。また僧侶間に墮胎の事甚しく、何某といへる婦人會に、僧侶が薄化粧して壇上に法を説くの珍事ありといふ。

◎長野縣下地方

私生兒は近年著しく增加し、分娩後之を殺害して法に觸るるものも尠からず。而して如斯は料理屋若くは飮賣店等に寄食する賣淫婦の徒に多からずして、却て普通の家の婦女に多く殊に未婚の女子の間に在り。嬰兒殺害の原因は多くは外聞を憚るに有りて、其母親等は大低此犯罪の連累者なるが如し。茶屋女に如斯き罪惡の尠き所以は、警察の取締嚴重にして、一軒の茶屋にて多くの傭女を置くとを容易に許可せず、又風俗壞亂の虞ありと認むるときは、直ちに其傭を解かしめ、甲の茶屋にて禁じたるものは、以後何れの茶屋に至るも、再び茶屋女たるを得ざる樣、各警察にて、豫め、其履歴を廻送し置く抔の注意を施せるによるといふ。

長野縣下の女俗をいへば、長野の女子は野暮なれども浮薄ならず内氣者多く、上田の婦人は意氣にして華美を好む。飯田の婦人は遊藝の出來ざるは普通學を脩めざるよりも耻辱の事となし、貧窮者の子女と雖も、三味線を彈じて鄭聲の音をなすとを習ふ。松本に至りては、飯田の風に上田の俗を加へたる上に淫風盛にして、金錢の爲めに人の妾等となり却つて得意なるの風ありといふ。

◎埼玉縣下地方

埼玉縣下は到る處に料理店多く、之に雇はるゝ酌婦は俗に達磨と稱して、密賣淫を業とす。人民生活の程度高まりし丈、風俗は從つて荒廢するが如し。

◎三河豐橋

私生兒の數は近年增加すれども未だ其甚しきを加へざるは、依然墮胎の惡習の絶えざるに由るものならん。又遊廓は正業者と混じて、一等街衢たる舊東海道筋に在るが故に從つて藝娼妓の市民と混同來往するあり、甚しきは娼妓にして取締規則を犯して外出し、豐川稻荷及び近村の不動尊等へ參詣する

者尠からず。又海岸の村落の如きは、テンレツと稱する一種の渡淫賣女入込み、飲食店等に足を止めて淫賣するもの到る處にありといふ。

◎岐阜

私生兒は市町民等に少くして、村民の間に多し。如斯きは父兄の不注意も其一原因なるべし。而して分娩後は何れも相當の養育を施して殺害墮胎等の犯罪極めて少なし。尤も近來は私生兒の數稍減少せり。料理店に奉公する酌女は二等藝妓の名稱にて、本年四月以來稅金を課せられ、又警察の賣淫取締をなすこと中々に嚴密なるを以て茶屋女はいたく困却せり。此等も私生兒減少の一原因なるべきか。

◎福井縣下地方

同縣下は、近來、百戶に滿たざる小村落にてすら藝妓業を營むものあり、料理屋を開業するものあり、山の中に三絃の音聞えて、怪しげなる女の徘徊を見るといふ程なれば、縣下一般の風俗の頽廢は推して知るべきのみ。此等の藝妓が月稅三圓若くは二圓五十錢を徵收せられながら、尙相當の利益ありて、この時節柄にも不景氣を訴ふることなしといふ。

◎伯耆境

此地私生兒は割合に多からず。而して姙婦は生兒の生殺を隨意にして、中等以上の社會にても、なほ往々此弊あり。殊に時としては公然たる夫婦の間に設けしものさへ、之を殺害して養育せざるものあり。如斯きは古來の習慣として、少も愧ぢざる狀なり。統計上私生兒の數の多からざるも、全く此習慣に起因す。

◎丹後舞鶴

淫靡の風近年いよ〳〵甚しきを加へて、私生兒、歲々其數を增加す。

◎丹後宮津

俗謠に「二度と行くまい丹後の宮津、縞の財布が空になる」といふ程にて、其地は遊惰放逸の淫風盛んにして、三千に滿たざる戶數を有する一町に過ざるに、比較的盛大なる、遊廓二ヶ所あり。貸坐敷の營業者五百餘戶、藝娼妓の數百五六十名にして、而も連日箱切れの好況なり。而して此遊蕩の客は、在來の地方人其多數に居れりといふ。

◎廣島

廣島は元來風俗の下れる地方にして、中國の新潟とも稱すべく、女子の近國に出稼して下女工女となるもの多し。日清戰爭の際大本營を此に設けられしより、風俗ます〳〵淫靡に奔りて、私生兒の數頓に增加す。二十九年中公生は男千百二十九人、女千五十二人にして、私生は男百十八人女百一人なりといふ。

◎香川縣下地方

香川縣內の私生兒の數は、元來近隣府縣に比しては、最も多き位地に在りて、監獄に投ぜらるゝ女囚の携帶せる幼兒の如きは大抵私生兒ならざるはなしとぞ。また風俗の頽廢は、殊に上流社會に甚しく、賭博流行して、人々を會得せざれば交際場理に立ち難きといふ有樣にて、これが爲に產を傾くるものも尠からず。

◎佐賀

風俗近年ます〳〵淫靡に流れて、私生兒の數甚だ增加すといふ。

くちはてれなほなり〳〵はさふ人の
こゝろにかゝる谷のまばはし　　元政

佛教徒の婦人會　（二）

◎豐前中津婦人教會

同會は今を去る十二三年以前、福田行忍師の主唱より成り、例月一會の法筵を開き、毎年三月に會員死亡者の追吊會を行ひ、時々慈善事業にも盡力することありしも、爾來會運頗る振はざりしが、本年に至りて、數名の有志者其再興を計りて、目下會員八百五十名以上に達す。主幹者は二名の寺院住職にして、婦人の世話方數名あり。

◎福島佛教婦人會（鳳鳴會婦人部并に眞宗婦人會）

福島市には二個の佛教婦人會あり、其一は各宗協同會合たる鳳鳴會の一部にして他の一は眞宗法義を聽かんが爲めの眞宗婦人會なり。二者共に同地顯官の主人中に熱心なる贊成者ありて、時々慈善事業に力を用ふることあり。

◎妙好婦人會　三河國福岡町

同會は數名の男子佛教徒の主唱によりて、本年一月初めて開設せられ、今や會員六百名以上に達せり。毎月一回眞宗派の巡教使を聘して法筵を開く。

◎西本願寺看護婦養成處　京都油小路通花屋町上ル西若松町二十七番戸

西本願寺は衆會の議決を以て、本年三月上旬より一の看護婦養成處を設置したり。生徒の資格は法義信仰の者にして年齡十六歲以上三十五歲以下、高等小學第二年級卒業以上の學力あるものに限り、修學年限は二ケ年間、卒業後は三年間本山の所用に應じて指定の地に到り、相當の手當を受けて、其業務に服すべき規定なり。

◎京都婦人慈善會

同會は眞宗數徒の婦人之が主となり、時々本派本願寺內等にて例會を開きて施米並に會員死亡者追吊會等を開き、また一年數度大會を開く。

◎桑名婦人教會

同會は時々相會して演舌會を開き、法話其他有益なる講話を聽聞するの組織なり。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

評論

慨世夜話

◎今の輿論は藩閥攻撃に傾かんと為て居る。之れより一層激烈となることであらうが、民間黨の都合には甚だ宜しく、政府黨の為めには不便極まる名である。然し乍ら、藩閥が何故悪るいかと言ふと、明らかに答へる人は少ない。若し閥と云ふものが悪るいと言はゝ、政黨も亦た閥ではないか。閥は情實を以て迎合するものだから悪るいと言はゝ、今の政黨に主義を以て成立するものが何所にある乎。もし地方感情を以て合するから悪いと言はゝ、何故、地方的團結が悪るい乎。地方も亦た日本の中、薩人、肥後人も亦た日本人ならずや。地方の團結が悪るいなど云ふは、まだ地方と云ふものに執着する人の言ふことで、元來地方臭味を思はぬ人の言ふことで無い。同じ日本の中、同じ日本人の中ならば、夫で宜しい筈である。憐れむべし、今時藩閥の名などを立てゝ攻撃する族は、他日又同様の名を以て攻撃せられることであらう。徳富蘇峯が今回の擧は寧ろ吾輩の贊成する所だが、惜しい哉、元來藩閥攻撃などで名を賣つた人だから、今日では自繩自縛の姿に陷いつたのであるが、之を攻撃する人が亦た悟らないと云ふは何んたることでしやう。

◎薩摩は五六百年間の潜勢力を有つて居て、維新後發展しかけたが、まだ／＼中々伸し切らない。此先でも容易に衰へるものでない。因果エネルギーの理は嚴かなる天則で、決して破れるものでない。弱い空論を吐いても、實地人心の積鬱したものを、さう容易く散らすと云ふことは出來ないものである。夫に、薩摩人に感心なのは、物に感激して、身を致すと云ふ赤心のある所で、之が大事に臨んで遂行する所以である。ことに、今日でも、密かに養つて居る青年が未だ中々多い。長州の貴公子の如く、直に式部官や月給取になつて、樂にして居るものとは、大分違ふ。可にせよ、不可にせよ、其の潜勢力はまだなか／＼散じ切つて居らぬのだから、經世家たるものは、其活用利導に注意せねば成らぬのに、只だ理窟を言つてこれを壓へやうとすると云ふは、眞に迂を極めた者

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

眼である。

◎いつ迄も〳〵政府々々と言つて、政府が何もかもするものの樣に思つて居る仁の多いのは、歎かはしいことだ。一と度び役人になつて御覽なさい。政府と云ふものには自動の力は殆んどありやしない。たゞ天下の諸勢力に動かさるゝ計りの事が直ちに分る。然るに、此の勢力の根柢となることには心をかけないで、何時迄も政府万能膏の誤解をもつて居ると言ふは淺ましいことです。

◎夫で、政治と謂ふものは、極く大躰の事をするもので、其他は通常の事務たるに過ない。役人は即はち事務官だから、輿論だの、大勢だのと言ふことは知らないで宜しい。夫に頓着すると腰が据らないで事務が晩くなる。其處で、政治の大躰は政治上の天才たる經世家のすることで、之は一國にさう多くあるものでない。多くあつても二三人で、其他は之に屬して居る丈けの事である。今のやうに、人才人才と言つて、あゝ澤山に政治上の天才があるやうに言ひ囃すと、ちと可笑しくなる。

◎李鴻章はサスガ大國の大臣ゆゑ、何となく眼界が濶い樣で經綸も切迫して居ない。其上、大綱に於て信を立てゝ居るやうであり、上には賢明なる皇太后の信用もあることなり、伊藤サンとは違つて、非戰論者であつたことゆゑ、戰爭後は餘程仕事が仕よくなつたやうに見える。巧みに逆境を活用して、魯士亞と談しをつけ、北方に其の鐵道を延長させて、大いに威海衞の邊までを開らくつもりのやうに見えるが、必らず夫に違ひない。遠からず、支那の開港は非常に盛んになり、東洋のサンフランシスコとなるに相違ない。香港でさへ、實際の商權を握つて居るものは、皆な支那人で、西洋人の家は固より、其の商賣も、三分の二は、支那人のものである相な。恐るべきは、西洋人にあらずして、支那人‥‥支那人の商賣である。

◎魯士亞の外交に若し人ありとすれば無論暴りに戰ふもので無い、我國の如きは、其の態度に驚ろいて切りに軍備を擴張し、其入費の爲に自から倒るゝに至る、必らずしも一兵を動かすに足らぬと思ふ筈である。然るに其邊の考もなく暴りに戰を促がし來るやうなことならば、夫は實に與みし易き敵で、固より恐るゝにも足りないが、悲しい哉、今の魯士亞の外

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

交は今少しく大きいやうである。露士亞は最早樺太にも心を置かず、朝鮮をも當にすまい。既に支那と連合して、其の多年の望を達するに十分の餘地を得たやうに見える。

◎今更軍備縮小の議案計りでは餘り見すぼらしいとではあるまいか。いよ〳〵人心を萎靡させたとて、經濟難が救へるものでもあるまい。然し乍ら、兎に角今の軍備擴張案は宜しくない。まだ小さ過るやうに思はれる。吾輩年來の持論は、擧國皆兵の案であるが、之を實行すべき機端が漸く近づき來るやうに思はれる。擧國皆兵とは、小學校以上の男子、五十歲以下の男子は、悉皆國民兵となり、一週一日即はち日曜日ごとに操練して万一の用に當ると云ふので、士官は固より多く入るが、常備兵は一万位に減ずるつもりである。此の一万は憲兵の類で、警察をかねたものだ。一旦緩急ある時は、國民皆な兵で、先づ〳〵常備軍に托するなどと云ふ緩慢のとでない。薩摩でも、甲州でも、名將は城を造らぬものであつたが、國民の雄强なるものは、矢張り常備兵を多く造る筈でない。皆ンなが兵となるが善い。六歲より五十歲迄で、四十餘年の間、毎週一度の調練だから、隨分上手になる。其の着物などは、自辨で、洋服でも股引でも構ふものでない。ソンナ事は、青年團たる今の日本の頓着すべき所でない。兵器彈藥は固より官費にせねば爲らぬが、夫にしても、入用は餘程減る。夫を以て半ばは鐵道などの布設に、半ばは海軍擴張に費ひたい。そして、海軍も平生は專ぱら外國貿易の事に助力する方針にせねば成らぬ。

◎内地雜居の期限も餘程近くなつたが、開放の曉は續々外國人が入込むならんかと言ふに、無論ソンナ事はない。又、來るとしても、大した商賣人は來ない。下等の素寒貧が一文なしで來て、此方の金でまうける位で、餘程規摸の小さなものであらう。悲しい事には、日本には大きな物產がなく、又大きな輸入もない。夫に大商人が出て來ると云ふ譯が無い。

◎文部大臣が代つても〳〵惡るく言ふ。誰が出ても、自分の出る迄は惡るく言ふ。實に情ない見識である。第一、學問の事位ゐは早く獨立しても善さゝうなものであるに、之すら政府の鼻息を伺ふもの計りで、文部大臣に人を得ねば、學問は擧らぬもの〻やうに思つて居る。學者の仲間さへ既に斯の如くであるものを、一躰に卑屈になりゆくは當然の事である。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎基督教界も、近頃は少しは賑やかになつて來た。之では成らぬと思ふものが殖えたので、祝すべきとである。然し、教會の衰へゆくは當然の事で、之は今更ら如何んともすべきものでない。もと其筈であるから、苦にしないが宜しい。迚も、信者を皆な教會に出席せしめて、日曜日毎に説教を聞かせやうなどと云ふとは出來る筈のものでない。之れ演説の流行した時代で、即はち言論に生命のある飜譯時代、輸入時代とか、又は寺院が莊嚴になつて之にお詣りすると云ふ樣な時になれば別だが、今の教會の如きに信徒一同を出席せしめやうとするのは無理である。そして、王侯も車夫も兄弟姉妹の附合ひをさせやうと云ふ、之が行はれる筈はない。殆んど空論である。もしも會員と云ふものを無形につくつて、之を悉皆教會に集めやうなどゝ云ふ制裁にしなければ、教會も今少し隆盛になつたのであらうが、依然たる舊組織で、誰もかれも日曜日毎の説教、水曜日毎の祈禱に出なければ信仰が薄いと云ふやうに見做すのであるから、自然に教會の方から信者を減らすと云ふ組織である。教會の衰へたは此の故で、畢竟時勢を知らぬからの事である。ソコデ、教會の衰へるほど、教會外の浪人信者が殖える。浪人信者のあるはまだ勢力であるのに、此の浪人をすら攻擊しやうとかゝる。眞に見識の無い腹の小さい話しだ。近頃のやうに所々に演説でもすると、此の浪人が喜んで聞きに來る。スルト大に欣ぶと云ふ。眞に可愛らしい見識である。又、何處かで、摸範教會などゝ云ふものを建ようとするとか評判するが、自分で摸範教會などゝ云ふ馬鹿者では迚もダメです。今日の所では、兎に角、無形の教會を擴張するか、莊嚴なる寺院を造るか、一々出席せしむる會員を有する大教會を造るの外はあるまい。

◎佛教も眞宗が一番勢力がある譯であるが、コヽニ一大英傑あらば、飜然之を改名して日本耶蘇教とするであらうに、まだ夫ほど膽の大キイ人が眞宗社會に出ぬと見える。

◎林政は實に大切で、就中、我國の林政は種々の事に關係を及ぼす。識者が深く心を凝らさねば成らぬとであるが、今の如き政治界に於ては、迚も其の大策を立るとが出來まい。殊に、御料林、官有林、錯雜して、御料林は御料の足しにもならずして罪人を多く出し、官有林は段々火けて仕舞ふ。民有林は固より不規則極まるもので、林地とは言はれぬ。山の荒

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

地と云ふものである。今日の時世に於て行はれべき策は只だ二つで、一には、願くは御料林と官林との多分を地方々々の小學校基本金委員とも云ふべきものに下賜されたい。固より大躰の所は法律をもつて支配し、其他は地方々々に任せられれば宜しい。二には、大なる山林會社を立るヿは隨分行れるに違ひない。外國人も必らず其の株主にはなるであらう。大計畫をもつて掛れば、此の會社は、利益も多くあり、安全であり、公益の爲にもなる。何人か之に從事しさうなものであるに。

◎雜居後、商賣人は迚も多くは來まい。招いたればとて、さう來るものでない、元來營利の爲であるから。然し、遊びに來るものは、隨分多からう。又多くしたいものである。日本の風景は公平に言ふて、天下第一である。天下の金もちを招き寄せて遊山せしめ、天下の風流人を致して風雅を味せたい。夫に大關係あるは山林です。

◎宣敎師は此上迚も多くは日本に來ないやうになる。段々に減る。之からは、支那に多くゆくであらう。米國あたりの評判では、之から五年間に五千人の宣敎師を支那に送りたいと言ふて居るらしい。何れにせよ、隨分多く入り込むヿであらう。ソコデ、基督敎は其國の國粹を强めるものであるから、日本に來ては、帝室尊奉の人心を文明的に固めるものは、今後は基督敎であらうが、支那では、其の政府を顚覆させる一大勢力となるものは其の基督敎であらう。支那では本來英傑が天子になると云ふを國粹として居る國柄である。

◎文學は餘裕ある時代に發達するが常であるから、此頃の如き時節に少なくなるは已むを得ぬヿではあるが、どうか、世が不景氣になり、困しくなるにつれて、美くしい文學が出て欲しいものである。天然の美は錢なしで見られるが、此に次いて何人も味つて樂しむヿの出來るものは大家の名文である。文學者は一種の救世者であるから、コンナ面白くない時勢ほど餘計に其の感化を流して貰ひたいものである。泥にはひづり廻る現金時代に、天風の如き理想を吹かけて貰ひたい。黃金の光りを消す美くしい詩歌の光りを輝かせて貰ひたい。激越超凡の趣味を擴めて貰ひたい。もつと自任したる文學者がモウ〳〵出さうなものだ。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

教　育

教育者慨然として任ぜよ

昔は儒者先生、一代の師表を以て任ずるの慨あるものありき。甚しい哉、今の教育者の衰へたるや、何んぞ其の自重するの淺小なる。彼もし功名に急ならば須からく功名に趨るべし、功名の事成しがたからんや、唾して取るべきのみ。彼もし其の伎倆だに有せずとせる乎、笑ふべし、何の不束ものぞ。彼もし一代顯榮の巨觀を望むか、何ぞ燦然として煥發せざる。疑懼して自から信ぜず、躊躇して能く斷ぜざるか、抑そも何等の未熟ぞや。若し成さんとして而して此等の事すら能く遂行せず、手腕此しきの事にすら耐えずとす、安くんぞ一代の國師を以て許可すべけんや。

夫れ、功名を見て小さしとし、顯榮を見て薄しとし、暫らく之を獵狩の才人に委ねて超然として敢て顧みざる所以のものは、彼自から別本領別天地のあれば也。黨人、黨に僻し、官人、官に賴る、商は、利に狂し、學者は、學に拘泥し、武人は、其劍に驕る。抑も、利害得喪の外に超脱して、卓然として、個人、國家、及び全世界の開發文化に任とするものは果して孰れぞ。

蓋し、教育の効果や、極めて微々たるが如きものあり。之を個人の開發に見て殊に其感あらん。則ち人或ひは曰く、先天の遺傳太だ力あり、時代の精神尤も力あり、一世の風雲就中大勢力あり、區々たる教育の効果何んかあらんと。之れ蕞爾たる一小教室内句讀の教授をもて教育の全躰と看做し、所云る彼教育者當然の任務を知らざるの言のみ。先天の遺傳は、固より個人教育の結果のみ、豈に他あらんや。時代の精神及び一世の風雲の如きは、教育者尤も培養し、集散し、開發し、保護し、善導し、活用し、克終せしめざる可らざるもの、抑も何等局部の實業者と、利害の才人と、冷々たる學士人との能く善妙に關係し得る所ならんや。

人或ひは彼が此の抱負を聞きて、空漠とせん、然らざれば多岐雜多なりとせん。これ抑も人生一貫の妙理を知らざれば也。昔しは、孔丘亦斯の如き疑問に應じ、則ち答へて曰く、

一以て之を貫くのみと。夫れ、個人と、國家と、全世界と、之を放てば大小廣狹の差、天地の如きものありと雖ども、巻けば則ち一理同躰に歸す。若し能く其の精を得し、其の道を覺し、知行合一の類推を經て、妙に天人の際を貫ぬく可き活學を修むるとをせば、心外別法なく、万象一理に歸し、宇内の形勢歴々として手掌にあらん。何ぞ、必らずしも、空漠にして、多岐なりとせんや。

但だ夫れ此の修養の死活何れぞと自問せんとすれば、試みに之を事實の上に發展すべし。靈覺未だ英ならず、先見未だ聰ならず、識量未だ卓ならず、伎倆未だ妙ならず。之を卑近に施こして當らず、之を感化に布きて力なきが如くんば、則はち、其の修養の未だ足らざる也、其抱負の未だ實らざる也他之を空漠なりと評下し去るも何ぞ能く辨ぜん。即ち空と則はち漠、未だ確實に得了したるものあらずと云ふと雖ども、其の自から任じて抱負して修むる所既に可なりとすべし。但だ徐に到達せんとを待つべき耳。

敎育者の抱負斯の如し。豈に抱負とのみ言はんや。當然の任務則ち斯の如し。彼之を得んとして、區々として文字藝術の

末に敎授しつゝあり。彼既に之を得て、得々として、文字藝術の中に敎授しつゝあり。彼之を究めんとして、茫々として廣く探り、和同として俗塵に混じ、無想にして衆言に聽き、以て宏大なる涵養を爲しつゝあり。彼既に之を得ては、施こして究乏に與へ、論じては一代に警策し、秘しては要路に説き、漠々として無形無跡の地に機輪を回轉す。皆な是れ教育者、雲象龍身の小影のみ。

試みに慨然として古の先人に意識し、熟ら當代忙々たる才子に眺め、以て蒼生無辜の究乏彌よ急なるとを感ぜば、大慈大觀の道に期とせんもの、安くんぞ興然として奮はざるを得ん。而して、敎育者の慨なきと今の如し。或ひは官門に媚び要路に迎へ、區々たる小功名に急にして、絶えて其の天職の偉大なるに樂しむとなし。嗚呼當代の恨事何ものか之に及かんや。

學習院長近衞公嘗て慨然として歎じて曰く、敎育界今日の如し、余は寧ろ敎育者と云ふを耻づと。

伊澤修二氏歐洲より歸來するや、（白）楚門社總會に臨んで兒童教育に關する演説をなす。其概に曰く、
余の今日最も憂ふる所は教育の方針の問題。

◎伊藤侯の敎育談

伊藤侯歐洲より歸來するや、龍門社總會に臨んで兒童敎育に關する演說をなす。其概に曰く、

余の今日最も憂ふる所は敎育の方針の間違へるを是れなり、今日敎育界の現狀を見るに小學校の敎員等が生徒に排外思想を吹き込み居りはしまいかと思はれる、若し此の如き風潮が盛になり來りて外人排斥の聲が高まりたらば、條約改正の實施後外人雜居の曉プリンシプルの衝突を來し、外人と喧嘩が絕えなくなるであらふ、是れ最も憂ふべき事である。試みに今日の如き排外思想が外人雜居後迄も日本に在りたりと假定せよ。外國人が日本に資本を放下して、事業を起し盛んに營み居るを嫉視する者相謀り、百姓一揆の如く、外人の製造所に亂入したりと假定せよ、外國人が不都合にも日本に來りて日本の利益を壟斷するなどゝ言ふて、壯士の徒が製造所に亂入したりと假定せよ、外國人は之を裁判所に訴へるべし、然るに判官が偏頗なる僞愛國心で之に不公平の判決を下すとなりたりと假定せよ、直ちに國際問題となり、外務大臣はドウにもコウにも分別の致方なき時代が來るであらう、コウ云ふ時代が來てはならぬから今から敎育の方針を程頁く確定して貰はればならぬ。

侯亦曰く余は素より歐羅巴主義を好む、歐洲主義は即ち世界の文明主義なり、この主義を以て社會の進步を圖られればならぬと。右に擧げたる侯の說の如きは杞憂に過ぎたるの見なりと雖も、亦以て時弊をいふものなり。

◎秋田縣の留學生規則

秋田縣にては今般スカラーシップの制度を設けて、學力優等、品行端正、身體健全にして同縣在籍のものに、學資を給して、他府縣に留學せしむるとをなしたり。地方府縣留學生規則は此縣を以て始めとなす。明治初年には各藩に内外の留學生ありしが如くに、各府縣また内外留學生を出さんとこそ望ましけれ。

◎秋田、山形二縣の學事及女學

福原文部參事官、山形秋田二縣の學事視察を了へて歸京し、其見る處を語るの要に曰く、

秋田、山形兩縣共學事は餘り進步の方にあらざるも、決して萎靡不振の狀態にはあらず。確かに進步の趨向には傾き居れり、而して兩縣とも敎員非常に欠乏せるを以て敎員の養成を計るは兩縣下の敎育進步上目下の最大急務なれば、此頃は敎員の養成に傾意計畫し居るものゝ如し。秋田縣下に於て最も遺憾とする所は、義務敎育の普及と女子敎育の發達せざるにあり。乍併中等敎育は中々盛にして、目下同縣に於ける尋常中學校は滿員以上に達し、入學を謝絕し居る有樣にて、中學校の不足を感じ、今回臨時縣會に於て同縣下に二個所の中學校を設立することを議決したれば、遠からず中學校の增設を見るに至るべく、而して同縣下は實業學校三個所あり、皆完備の敎育を爲し居れり。女子高等學校も目下設立の計畫中なりと云ふ。之に反し山形縣にては尋常中學三ヶ所實業學校六ヶ所外に鶴ヶ岡に女子高等學校の設立あり。尙米澤山形女子高等學校設立の計畫ありて、同縣會の議決を經て、一校に付六百圓三校千八百圓の支給をなすことになしたり。併し實業的の敎育は秋田縣に劣る所あり、向後完全の敎育を施す事に盡力し居れり。特に同縣下に於ては子守敎育制度を施行し居り、漸次普及する見込にて秋田縣に於ても此制度を施行する筈なりと云ふ。

◎小學校女生徒半途退學の原因幷に救濟法

小學校女生徒に多數の半途退學者多きその原因幷に救濟法につきて、山口縣吉敷郡敎育會の調査したるもの左の如し。以て一參考となすに足らん。

○敎科上より起る原因

イ女兒は男兒に對し體力劣る所あるに係らず、現今の敎科課程は男兒と同一にして、女兒に對して多きに失し且困難なること。

ロ學科と敎材との女兒に適切ならざること。

ハ裁縫及家事等女兒に必要なる學科の敎授時間少くして、學藝技術に練熟せしめ得ざること。

○家庭及兒童自己より起る原因

イ古來の風習として女子敎育に重を置かざること。

ロ早婚の弊よりして、早く之に職業を授けんとする傾あること。

ハ子守など家事の手傳をなさしめ、又子守奉公をなさしむること。

ニ女兒は比較的少数なるを以て、勢力少く從て在學を嫌ふ傾あること。
ホ女兒は雷同して退學する弊あること。
ヘ身體の發育殊に著しきものは在學を愧づる傾あること。

○救濟法

一、現行の教則を改正して女兒に對しては特に教科目を減じ、適切なる教科目のみとなし、且教材を撰擇し裁縫家事等の教授時間を増加し得べき道を開き、男女學級を同しくするとを禁ずべし、是れ教科上より起る原因に對する必要の救濟法たるのみならず、家庭及兒童より起る原因に對しても最適當なる救濟法たる可きを信ず。
前項の外明治二十六年十一月文部省令第十六號に據り尋常小學校卒業若くは高等小學校中途退學者の爲めに、女子實業補習學校を小學校に附設するの一事あり、是稍題外に涉るの嫌なきにあらざれども本題の精神を貫くに於ては又一便たるを信ず。
二、中途退學をなさしめんとする者ある時は、其事情を審査し容易に許可せざること。
三、强制又は或る方法を以て父兄(父親より母親の方効多きが如し)を召集し諸般の談話をなし教育の必要を知らしむること。

◎慶應義塾

慶應義塾が曩に新運動を提起し來らんとして、小幡氏其塾長職を辭し、福澤翁之に代り、また同塾關係者連名を以て、基本金募集をなせり。其募集趣意書なるものにより、以て同塾創立以後三十餘年間の小歷史を知るに、開校以後の入塾生徒壹万餘人、卒業生貳千名、固定流通資本卅五万餘圓あり。また明治二十年大學部建設の事を企てゝ以來宮內省下賜金はじめ其他の寄附金を得たると十万五千圓以上なりといふ。なほ將來の目的は大學部を擴張し、工學部高等商業學部を設立し、書籍館躰操塲等を完全にするにありといふ。而して近報を聞くに、募集運動以來、既に多額の寄附申込を得たりとぞ。

◎海外教育界

●ケンブリッヂ大學の教授優待法　ケンブリッヂ大學にては、其教授は何人たるを問はず、十年間續勤以後は、一年間休校の上研究及旅行に從事するとを許可して、これが爲めに多額の資金を給與するとに定めたり。

●紐育市來年度の小學教育費豫算　は約六百八十七万三千四百五十弗を支出する由にて、本年度より超加すると、九十四万二千二百十弗なりといふ。

●ヘンリー、ピーアス氏の遺産　の內七十万弗宛をハーバード大學、工手學校、美術展覽會、マッサチユセット病院へ相續せしむる由。

●大西洋海底電線剏設者の遺書　故サイラス、フヒールド氏の大西洋海底電線布設事業に關する、凡百の書類は、今回華盛頓府國立博物館に陳列するとなれり。

●二十年間の教育寄附金　米國全躰にて過る二十年間第一流の諸學校へ、私人の寄附したる金額は約二億万弗に達し、之を一年平均すれば、千二百万弗に達すといふ。

●黒人の音樂者　千八百四十七年に米國ジョルヂア州アウガスタに生れたる一奴隷ミルトン、ウルカーと呼べる一黒人は、此度ボストン市音樂協會評議員會の名譽員に擧げられたり。

●市俄高市モルガンパークアカデミー　は此程ジョンロックフエラー氏より四万五千弗の寄附金を受けたり。

●米國デーニッシユ福音ルーテル諸教會　は評議の上ウイスコンシン州ラシーヌにデーニッシユアメリカン大學を設立するとに決したり。

●米國ペンシルバニア州　の新に設けたる自由圖書館法律は、同法律の立案者なるベンジヤミン、ホイットマン氏の生地なるエリー市に於て第一着に實施せらるるとなれり。

●盲聾啞協會　米國カリフホルニア州バークレー盲聾啞院の卒業生は、此程一協會を結成して、此等不具者の高等教育を受くるとを得んが爲に、富人若しくは合衆政府及び州政府より奬學金を設けられんとの運動に從事するよし。

◎米國最初の露語教授　として此程シカゴ大學に聘せられたるヨースフオッフ氏は、トルストイの友人にして、其著書の二三をも英譯したる人なり。

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

隨感

○秋の垂示

山川國土ひとしく說法す。いづれを愚に聞流すとのあるべきぞ。分けて悲しきは、秋の末、冬の初めにぞありける。清冷にして慾うすく、哀れましで情け深き天地の如何んか垂示すと聞け。虫聲、枯草の下にすだき、破風、落葉を追ひ、夜もすがら、つくづくと感懷すれば、宇宙人天の大悲大慈、しみじみとして腸に徹するかな。左るにても、淺ましきは吾が心かや。万骨枯れて吾が來し方の途に横たはれど、吾が靈、一將の功を遂げず。むなしく山河に放浪して、未だ安住のすみかを得ず。なまじひに遍歷する所、そもそも何の爲ぞ。必らずしも佳人愛兒の覺えを絕てとせず、必らずしも同胞邦家の誼みを忘れよとせず。むしろ相率ゐて、大安定の域に至らんとの適はざるべけんや。徒らに、形の宗敎に迷ひ强ひて理外の勞を爲す莫れ。脫然として淸らに大悟せよと。

○紅葉のいのち

紅葉なほくれなゐせず。互ひに祝して曰く、ことしの壽長さよ、願ふらくは、一日だに延命せんと。

風雅をほこる人の歎じて曰く、霜晚く葉未だ染まらずと。

醉客罵しつて曰く、紅葉尙ほ靑し、何ぞ、早く醉はざるやと。

遂に葉紅く、遂に葉散ず。四方の客來り觀て賛して曰く、何等の好風致ぞと。

○氷川淸話

海舟先生の談話の世に出でしを編輯せしもの出づ。一夜通讀して今更の如く感歎せらるゝもの尠なからず。素より其文よく悉せりとすべからざるも、糢糊たる神韻を彷彿の間に示す、亦以て一斑を推すべき也。先生好んで『學貫天人際』の語を誦す。齡七十六にして志學毫も衰へず、日夜究めて休まず。新刊小說類悉皆讀まざるなく、積んで四十餘箱を充たすに至る。他は概むね知るべき也。而も、多讀を貪ぼるに非ら

す、沈思に泥むに非ず、妙に好く一道の神路をたどる。先生の如きは如今殆んど匹なきもの歟。

○死を決して氷の如し

露伴が「ひげ男」を讀むに、馬場美濃、死を決して清水を掬するの條に、冷氣骨に徹し、一身清澄するの趣きを形容しつる一段あり。蓋し、人死生の羈絆を脱出せし刹那の感激は、眞に此文記述の如くならめと思はるれど、よく此邊の消息に同情を表することそ、さすがに露伴なりけれ。

○万事不成須責吾志

成否は我にありて彼にあらず。徒らに所因をかなたに索めんとすることそ愚なれ。心に塵ありて即はち家に塵あり。思ひ惑亂して即ち手腕くるふ。形は心中にあり、影は身外にあり。もし先づ躬から責めずんば奈何んぞ効あらんや。擾々として多事に忙はしくすとも、一糸亂れざるの心緒先づ調はざれば、亂麻は治めがたし。かの靜を守りて、此の中を嚴そかにし、深く主張して而して遠く放たんとすれど、淺劣の吾身の甲斐なきこそあだなれ。たゞ〳〵學ばんとする所の、乃はち是の如くなるのみ。

○團洲左團治の聲樂

折ふしは芝居と云ふものもみたれど、かけ離れて聞くときは、せりふの調を節ごとに感歎せしとのありこそすれ、未曾て一音一響の美しきに氣付しとはあらざりし也。さるに近頃ろ若兒に誘はれて蓄音器と云ふものを見、團洲、左團治が臺詞を最と近く聞きて、愕然として驚歎せしものあり。あゝ彼等が聲の音樂の如何に巧妙なるやと。其の調と節との麗はしきは更に言はず、聲の含み廣く、量重く、巾ふとく、澄みて高く、透りて力ある、眞や、一言一語の音響すでに歌樂のごとくなり。練磨の工夫抑もや幾辛酸を經たるぞと、浦山しくも亦恥かしき心地のしける。三年五年の音樂學校卒業生などが及ばざるは論を待たず。説法者、演舌者なども、其餘りに修練なきに歎ずべきわけならずやと感ずるにつれても、吾等が年ごろ手がけたるとに不首尾なるとも亦恥かしくぞ思はれける。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

○自らは價値なしと言ふ

われこそ眞に生きて甲斐なきものなれ、思ひ運らすに何の價値もなし、死せし方、ましならめなど言ふ人のあるに、余告げて曰く、御身もし自から價値なしと眞に思ひ玉ふとを得ば、是れ偉大なり。世の常の人は決して若く斷念する能はず、こゝに於てか煩惱あり。されど、眞に自から價値なしと思ふや如何にを撿定せんには、褒貶に對する其の情感を察せざる可らず。もし實に自から甲斐なしと思はんほどならば、人の罵しるときに心服すべき筈なれど、其人大抵は怫然として怒らん。自から價値なしと言ひつゝる人の、他より誹らるゝ時に怒るは奇しからずや。由て以て其の自から欺むくの所以を知るべし。夫れ人眞とに自から價値なしと知らば、之れ偉大なり、古來此類の人尤とも少なし。

○さびしき人の又もあれな

世を遁れては麋鹿を侶とし、人を棄てゝは浮雲を宿とす。本來多恨多情の故に、よしや位ゐ山を後にすとも、如何で何ものかに朝暮の思ひ遣りなかるべけん。世を厭ふとは、熱く世を思ふの情に相應しきものゝあらざればなり。葉をもがれたりとて枯木と言ふとなかれ。花を咲かせよと言はゞ咲かせんとの難からめや。西行法師、世をすてゝ山に入り、山に寂寞として歌ひけらく、

淋しさに堪へたる人の又もあれな
いほりならべん冬の山里

○微笑靜默の友

ざわ〳〵しきを厭ふと莫れ。喃々たるを輕んずる莫れ。淺墓なるを罵しるなかれ。曲りひねれたるを惡むなかれ。曲りたる木もあり、淺き流れもあり、風の驚ろかすもあり、木の葉のさわぐもあり。人界の煩雜も亦た一現象ならずや。必らずしも、世を棄てんとすれば、其心すでに煩はし。必らずしも客を辭せんとすれば、亦さびしからずや。靜と忙と、多辯と沈默と豈に異なるとせんや。要は吾が胸波標渺たる所に存す。微笑して獨り樂しめば、万景すべて默するにあらずや。われは非默の默をよしとす。

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

雜録

本阿彌妙秀尼の逸事談

◉刀劍の鑑定家として、今猶其流つきず、數十代の家業連綿たる本阿彌家といへるは、鼻祖は菅家の苗裔五條高長卿の老年の庶子の剃髮して、妙本と稱し、足利尊氏に隨身して、刀劍奉行を勤めしものなり。其七代に當る光心の娘に妙秀尼とていみじき女性ありけり。光二を婿として光悅を生む。光悅は其家業たる刀劍鑑定に妙を得たるのみならず、また和流書道に達して、別に光悅流てふ一派の祖となれり。此人豐太閤の天正慶長の間に人となり、德川氏の寛永年間に沒す。

◎光悅如き一廉の人物を養成したるは、實に其母妙秀尼が平素奇特の志によれり。此尼につきての逸事談の、頗る感嘆すべきもの多く侍れば、いま之を列べ擧げて、大方の心の種を蒔きなんか、

◎光二は曾て信長の寵を受く。信長、荒木攝津守を亡ぼせし後、攝州が所持に大郷とて、義弘が鍊ひし名刀ありしが、如何にしけん賣物に出でしを、光二求めて信長に進めしに、不吉の物なり、用に當らずとて却けたれば、之を藏め置けり。然るに當時出頭の何某、此刀を得まく欲せしも、之を購はんにも過分の價なるが故に力及ばず、如何にもして奪取らんものと企てゝ、光二を信長に讒しけり。寃罪伸ぶるによしなかりしに、或時信長加茂山に鹿狩せし折、妙秀垂布の陰より、走り出で、馬を控へて、夫の寃を訴へたり。信長一時は其無禮を憤りて鐙にて蹴りたれども、夫に罪咎あらば、妻の身にて知らぬとはあるまじ、こは全く讒誣の故なるよと悟りて、翌日光二を召し出でゝ、其寵愛昔に異ならざりき。

◎或時人を害せしもの、血刀を提げて光二の家に入り、妙秀を威嚇して、庇陰を求む。尼は諾して、納戸の内に潛ましめ、外よりかけがねを掛け、己は其儘端近く出でたるが、果して追跡するもの數十人闖入したり。見れば若き女の唯一人色をも變へず端坐せるを見て、衆詰るに實を告ぐるを以てす。此時初めて尼はことさらに色を變へいたく驚きたる樣して、あな恐し、早く探して捕へ玉へと叫びしかば、衆も扨ては此

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

家に入りしには非らざりけり、隣家にやあらんとて出で去りけり。日暮れ、人静りて後、彼男に帷衣着せ變へさせ、編笠、錢など取らせて去らせたり。

◎秀吉の時盗賊の張本石川五右衞門、京洛中を騒がし、光二も其禍にかゝりて、諸方の大名より預りたる多くの刀脇差を奪はれたり。光二いたく落膽してありしを、妙秀は慰めて、腰刀を我家に預くる程の武士が、今盗賊にあひたりとて、何とも思ふまじ。たゞ此盗賊は、世に名高き刀脇差を奪ひ去りたれば、軈て露見して、多くの徒類は命をとらるべし、あはれの事やと、いひて如何はしたりけん、其盗人の忘れ置きたる白綾の小袖一領ありしを、心許せる一人の召仕に持たせて、本性寺聖人許參らせ、此盗人重く罪せられぬやう祈念あれかしと頼みけるとぞ。光二が家に盗賊入りたりと聞きて、人々我勝に見舞に來りしに、妙秀少しも驚かず、夫は本性寺普請の相談にて下京に趣きて留守なりといひしかば、多くの預りたる寶を失ひて少しも驚かぬは、夫婦ともに尋常ならぬ人なりけりといづれも皆感じあへりしとぞ。

◎妙秀日頃我子を養育するの法、少しにても善き事あらば、いたく之を褒め喜びたり。他人の子を折檻するなどを見るときは、あさましとて歎き常に幼き者は、心のかゞけず、心の勇むやうに仕向けてこそよけれといひき。繼子を悪む女ありと聞きては、其子の實母の艸の陰より、さぞや歎きて恨むらん、繼子は我子よりも大切に育つべしといひ、繼母の我儘を打棄て置く男は、腰ぬけなりと嘲りき。

◎我子に善らぬ行あれば、いつも竊に藏の内に連れ行き、、、くるゝを下して、人の挨拶に來ぬやうにして、さて何とておとなしくはならざるぞと諭しつゝ、少しも怒らず、子を前に抱き寄せて、しとやかに折檻を加へたり。されば子供心にも、いたく母を畏れて、よく其敎に從ひ、身を謹みたりとなん。其子七八歳にも成れば、自ら四書五經を敎へ、素讀の時より講釋を授け、また歌道に導き、かつは家業に勵ませたり。又嫉妬深き女は、元と其身好色なるが故に、男の耻をも顧みざるなり。さやうの女は、必ず悪しき事あるべし。夫死して後に操正しきはなく、成人の子を持ち乍ら、早く再縁すると多しと常に語りしとぞ。

◎親類の者他人と緣邊を定むるとなどあらば、妙秀甚だ之

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

を喜ばず、一類夥多あるに、他人に遣はすは、其娘に疵あるやうなり。若し一類の中に成人の娘之れ無きに於ては、致方もなけれども。幸ひ我方に似合しき者あるに、之を措いて他に求むるは、父祖の血統を輕んずるに當りて頼もしからず。また物好をなして、他より求めたりとて、花の降りたるやうなる幸もなく、まして其娘の先祖の善悪も、大方は知られぬさへあるにといへり。また或はいふやう、利を求めて持參金ある嫁を尋ぬるは、腑甲斐なき事なり、必ずや禍の基を開きぬべし。兄弟の仲悪しくなり、耻を世に曝すも、皆金故なり。貧者の死したる跡に兄弟睦ましからざるはなし。持參金あるは、其嫁の爲にもよろしからず、何事に付けても、金を持ち來たりたるが故に、悪しく振舞ふなりと人に思はれんかと氣遣はしく。また男は、嫁を金故に可愛がるよと、人の噂をせずやと心がゝりにて、爲に夫婦仲の睦ましからぬやうにもなるなり、人の大事は縁邊に在り、夫婦の語らひ睦ましくてあらば、如何ばかり侘しき世過ぎも堪へ忍ばるべし、思ひ合ひたるものは親をも棄てゝ奔り、困苦もいとはぬとあるなり。親達のたゞ慾にのみ心を奪はれて、分不相應の嫁を娶り、婿を迎ふるはあさましき次第なり、誠に我子なり、我親なりと思ひ得らるゝ程の嫁または婿を迎ふべし。分に過ぎたる婿をとらば、あたら我娘を腰元、下女同樣に賄ふとなり、分に過ぎたる嫁を娶らば、暮向万事、花やかになりて、家法亂れ、家を亡ぼすに至らんと。

◎妙秀また常に慳貪大慾にして富貴となりたるものは、後必ず衰ふべしとて、深く之を嫌ひたり。男子二人女子二人の子ありしが、姉娘は媒酌人の口車に僞られて、岡田某といふ身上貧しき者へ嫁入らせたり。光二後にて大に之を悔みけるに尼は、身の貧なるは却て喜ぶべし。富貴なる者は慳貪大慾にして爰に至りたるかと思はれて、疎まるゝなり。此婿の親は心正しく親孝行の者なりとたしかに聞きしが故に、心丈夫に思ひて遣はしたるなり。先祖の善心なるに勝れる寶は世にあらじ。さるに又夫婦の仲も睦まじきとなれば、後必ず仕合よき事のありぬべし、さのみ悔み給ふなといひしが、程なくて男子を設けたり。親は淺井氏の家來筋なりしが後にこの新三郎といへる孫は、二代將軍の御臺所淺井氏のゆかりによりて、上つ方に用ひられて家も榮えしとぞ。

◎又何某といへるもの、侍の娘を娶りしに、一人二人の子を設けたる後に、疱瘡を煩ひて、貌醜くなりたりとて離縁したり。人々之を聞きて、今こそ始めにもまさりて愛すべきものを、さりとても心賤しきものかなと爪はじきしけり。然るに妙秀の二男宗智といふは、洛中にて評判の正直者なりしが、彼妻を離縁したる者と、時々交際したるを、妙秀きゝて打腹立ち、世に隱れなき畜生同樣の者に交はるものは、また畜生なり、我子には非ずとて勘當したり。これは餘りの事かなとて人々取成しをしけるに、我とてもさやうに思はぬにてはなけれども、かゝる義理違ひの者が、多き一類の中におりては爲よろしからずと思ひて、懲しめしなりといひけり。

◎或時孫婿の家大火に罹りしとき、召仕の者馳せ來りて只今土藏に火の入りたりとて泣き叫びけるに、妙秀之を聞きて大聲に扨々喜はしき事かなといふ。光悦傍に在りて、人聞も有らんに、よしなきことを言はるゝなど母を諫めしに、妙秀答へて、さにてありけり、しかし乍ら此者の先祖は無慈悲慳貪にして、人に金を貸して高利を貪り、不義を働き、かくて貯へし寶は、今此藏の内に在り。この財寶の有らん限は、災難は免れじと明暮心苦しく思ひしものから、今火の入りたりと聞きて、餘の嬉しさに、前後も辨へず聲あげしなりといひしとぞ。

◎妙秀また常にいひけるは、親子兄弟の、處近く住居するはよろしからず、遠きは花の香とやらんいふぞかし。近ければ、下々の者屢出入して、主家の落度を語り合ひ、爲に双方の不和を惹起すことあるなりと。

◎人の死したる跡にて、少しの借錢ありと聞かば、妙秀は、さて〳〵其子は、良き遺産を受繼ぎたるものかな、必ず冥加の仕合あるべし、かへす〳〵も慾深く貯へ置きたる金銀を讓り受くるは恐ろしき事なりといひ、また親の苦勞にせし、貸金證文を裂き棄つる子は、佛神の惠みにかなひて、行末よろしきことを、屢見たりといひき。

◎或時光悦黄金三十枚にて一の茶入を求めて、親の代より扶持せられし恩あるによりて、之を前田利家に贈りたり。利家大に喜びて、白銀三百枚を賜はりたるに、光悦固く辭して之を受けず。家に歸りてこのよしを母に話せしに、母は光悦の金子を受けざりしを聞きて、いたく賞せしとぞ。其後此茶入

は前田家より改めて光悦の嫡子光瑳に下賜はりしに、光瑳は、私には家督を賜はりたれは、是は妹に取らせ給へとて辭したりとなん。

◎妙秀は子孫多かりしかば、此等より贈り來たる、折々の音物も澤なりしかど、妙秀は一つとして之を我身の爲めに取らず。時服を贈れは悉く斷ち切りて、帶、襟などになして、人に遣はす故、これにては折角の志も甲斐なしとて、錢を贈れは一入悦びて、これにていろ〳〵さま〴〵の物を求め置きて、家を持つものには、もろ〳〵の家具、六尺草履取には草鞋、金剛杖、女には糸綿鼻紙手拭などを取らせ、また厚紙を日頃手つからよく揉みて紙衣となして、あまたの乞食を招きよせて一々取らせなどしたり。常々人を教へて倦まず、無分別者には、親に孝なれ、氣づかひさすな、さらば必ず冥加あるべしなど教訓しけり。

◎妙秀九十歳にて身まかりけるが、我が物とては唐縞の單衣一枚、帷衣、袷二枚、浴衣、手拭、紙衣の夜着、木綿の布團布の枕の外には何一つだになかりしとぞ。この志は光悦も之を受けつぎて、八十歳にて身まかりしが病中に板倉京都

所司代父子、度々見舞ひたるに、これも木綿の布團に臥して居たるを見ていたく感じたるよしなり。

◎妙秀如斯く賢明の婦人なりしかば、光悦は素より、子孫皆よく其敎を守りて、家門爲に昌へ、又奇特の人を出すと多かりき。其孫女、妙山といへるも、祖母と弁ひ稱すへき程の賢婦なりき。妙秀子孫百人に及ひけれとも、一人として廣き家屋敷を持ちて榮えざるはなかりしとの一事のみにても、如何ばかり、此尼が庭訓家教の殊勝なりしかを思ひやらるゝなり。

山あそび

馨泉女

仙臺市を去ること一里餘り、東北の山續きに三瀧泉と稱する勝地あり。溪間の清き流れ三折して、三瀧となる故に名づくとかや。山上に温泉場あり、遠く海を望む可し、望洋館と名つく。松島の秀景も此内にあれど、千里の明なき凡眼の我等には、金華山の外は明かに見るによしなし。此山の東に文珠山あり、北は山形街道に通じ、前面に廣瀬川をひかへ、いと

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

も得難き好遊地なり。諸姉よ仙臺に遊び給ふこともあらば必す玆を訪ひ給へや。我等も神無月の末菊紅葉の時節を卜し、數々の幼き人をともなひ、一日彼の地に遊べり。後山の若木薄紅葉し、樹蔭水にうつりて、白瀧に錦のてりそふ姿、得も云はれず「山姫の織りなす錦さらしけん姿すゞしき瀧の白糸」なぞとおやしき歌とも口吟み、つた紅葉にすがりつゝ、猶山深く分け入りて、遙あなたを眺むれば、龜岡八幡の御社の森、雲井に聳え、山下に並ぶ青葉の山々も、きのふけふの時雨に染めけん、濃く淡く紅葉し溪間行く廣瀨の川はさながら立田の錦を流すに似たり。

　久方の雲井にちかき玉がきは
　　田鶴むらならて龜岡のもり。

我獨り斯く深山に入りしが、幼き人々はいかにと、もと來し山下を見かへれば小川のおなたこなたに群れ集ひて、紅葉に似かよふ紅の盃どもおし流して餘念なく、笑ひどよめき興づるさまいとをかし。近く立ちよりて何し給ふぞと問へば曲水の宴にて侍るとほゝ笑むもあり、否々此盃に題ども書きておし流し探り侍るになんといへば、又一人がさなり〳〵斯くてよき歌よみ給ひし君に此盃かづけまゐらすなり。あはれ判者となりて給はれかしと、袖引き裂かんばかりに、すがりてよゝと促しつゝ、我おもて差しのぞくも叉愛らし。いかによき歌ものし給ひしぞ見せ給はれとすかせば、見て給はれと我も〳〵と差出すをとりて手に開き見れば、皆鉛筆もて懷紙に走り書きしゝ、朧なる文字の數々を讀み行くに、

谷かげの菊のしづくや落にけん末くむ袖や香に匂ふなり。
波の花くだけて白き流さへ紅葉の色に染めにけるかな。
山姫のさらす布とや見てすぎん岩に碎くる音を聞かずば。
茜さす夕日のかげのてり添て木々の紅葉も色まさりけり。
秋ごとになかめつきせぬ菊の花幾千代かけて咲き渡る覽。
世中にあだなる花も多けれと散るよ知らぬ菊もありけり。
紅葉に八重も一重もあらねども薄も濃くもてる山邊かな。
秋くれば賤か伏屋になつかしき色香をこめてさける白菊。
つゆしげき山路の菊に仙人も千代の命や賴むなるらん。

なぞとあり。いづれもよくこそものし給ひぬ。こを土產にいざまからむ、とうちつれ立てひとしくさりぬ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

（七九六）

露伴子が「ひげ男」

霞　山

名高きものなれば夙くより讀まんとして果さず。近頃一夜閑を得て通讀す。

作筆の苦心歴々たり。他の湧感叱咤の作と同日にあらざるとは、直ちに分明なり。文も亦た異様、格調殊なれども、終によく主張徹透せしめたるは、氣高く腕老なれば也。

第十一は壓卷なり就中、

風さへ音なき夏の野に動くは雲の影ばかり、日にかゞやける鎧武者の裾より徐に兜まで薄墨色に翳りゆきて、淋しく光の亡するのみ。

の妙句を經て、信房、ひげ男が死を制むるに遂に答へ、立上りて大六が身を掻き抱き、天空振仰ぎて錆聲太く、嬉しくも武田の御家に、和殿の如きが猶ありしよ、云はるるところも義理至極せり、誰か否と申すべき、さりながら我等は時來りぬ、老いたり、死すべき時來れり、死すべき機會にも臨めり、我存のみにて死なんとならば、和殿が意見にも就くべけれど。時なり事情なり、機會なり、天命なれば是非に及ばず、

あゝこれ馬場美濃の學と識とをもつて初めて言ふべく、露伴子が熱情にして初めて贊すべき實際の言ひやう、殆んど英雄の腸を開くものと云ふべし。

信房の外に今一つよく寫されたるは、家康が言動なり。中にも、酒井忠次が願ひ事せし條に、

躊躇の間に機は奪はれたり。のつと身を伸して乾度此方を睨まへ乍ら低き聲音に、のう、忠次、無理は汝も云ひ度かるまい、と壓へかけての主君が語に、頓には戻き云ふべくもなく、またも少時躊躇ふところへ。許せぬ、是非無い、思ひ棄てえ、と重ねて嚴しく云ひ切られて、斷岸千尺攀ぢ難く、取り付くべきところも無くなりぬ。

何等老巧の才人ぞ、よく此邊の消息を寫す。家康當年の恩威駕御躍如たる哉。

此他、所々に妙句あり。所々に悟道あり。所々に理想あり。あらずもがなと思ふ露伴子の僻もあり。更に掲げたしと思ふもあれど、暫く言ふとを畧す。

白馬會瞥見

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

好春生

黒田清輝氏が裸躰美人の評判喧ましければ、一日瞥見す。三個の美人、各様に畫き出され、右は理想派、中は模型派、左は寫實派を代表し、智、情、感を寫せしとかや。中なるは、模型の如くして活物らしからずなど言ふもの〻ありと聞けど、そは畫の目的を知らざるのみならず、畫をも善く見ざるもの也。其の腰より下、前につぼめんとする樣姿は如何にもよく日本婦人の躰を寫し、捧げたる兩の手も、指頭に力あり。風貌もとより多情を見めし、一見優等の作なり。右と左とは、や〻作し易く、人を動かし易きもの、此等を彼に優れりとするは穏かならず。こ〻に、左の方、亂髪婦人の腰より下は全く死せり。毫も活きたりとは思はれず。右の方の足指徇ほ力あるに及ばず。

三個を通觀して極めて惜しきは、其の少きにあり。畫幅の小きにあらず、張りの小き也。たとへ、一寸八分の小躰も、觀るものをして擴張して意識せしむる力あるものあれど、此は場中第一の大作にてあり乍ら、吾等をして之を人形の如く思はしむるに至ては、未だ妙ならずと言ふべし。看者試みに畫前に立つて此一事を思へ、汝よく彼三者を眼中に膨脹して活ける三婦人の身の大きさとなすことを得る乎と。

同じく黒田氏の作に、右側に、美人納涼の圖、美人栽を掲ぐの圖あり、納涼の圖、美人が無想無念に二方をながむる躰、秀妙なり。之を以上五美人畫中の第一とす。たゞ、遠山の今少し鮮かに、海水の今少し淡からざるを惜む。栽を掲ぐるものに至ては、左手宛がら掌をもて栽を撫する如く、ことに傾むけたる首に力なくして、首を曲げたるの躰現はれず宛然、佇立して此躰に静まり寫眞にても取らする如く、活動の氣なきを恨む、而も能く觀客をして目を放つことを得せしめざるの吸引力あるは、凡手の作にあらず。

他に、白瀧幾之助氏が、三味線師匠稽古の圖、同じくおさらひ身じまひの圖の二つ、尤も吾目を惹けり。此の二圖の如きは、才筆と云はざる可からず。將來必ずや名を成さん。

すむと見し心の月もあらはれて
この世のやみは晴もしにけん　西行

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

深草元政歌　ぬきほ

草山和歌集

世をのがれてこゝかしこあるきける頃

遁れては山里ならぬ宿もなしたゞわれからの浮世なりけり

獨述懐

山里も都もをなじかくれがや世にわすられし我身なるらん

やよひつごもりに

行く春をゑばしとなかん鳥だにも歸る別れは云かひもなし

月前擣衣

われもこの月にはねじとよもすがらうつや砧の聲も惜まぬ

山家

朽はてねなほをり〳〵はとふ人の心にかゝる谷のゑばはし

旅

歎かじな迷ひきにける身をしれば我故郷もかりの宿りを

はるの歌の中に

うちなびく梢に見えて青柳のいとよりほそき春のみかづき

花の歌の中に

なにゆゑに花に心をつくすぞと春はふれどもとふ人もなし

はゝの亡くなりてのち

惜からぬ身ぞ惜まるゝたらちねの親の殘せる紀念と思へば

辭世

鷲の山つねにすむてふ峯の月かりにあらはれかりに陰れて

◎甘藷料理 (四)

●(六十九)紅藍きんとんいも　藷精に石蜜末交ぜ合せ、蒸して餡を入れ、金柑ぐらゐに取り、蒸藷の馬尾篩ごしに石蜜末合せ紅にて色付丸くとりたるいもにまぶし付る。

●(七十)蛤いも　生にておろし蒸して蛤の肉の貌に造り、はまぐり殼の中に入れ醬油少しさして、貝共に燒ていだす。

●(七十一)いも酒　藷精を寒中に製する時、一番汁を取りて、銅鍋にて煮かへし、火酒少し合さば、銘酒の如くなりて、下戸の口に適す。

●(七十二)白雪糕いも　藷精に寒曝の粉、石蜜末を合せ、肉桂末、丁子末少し計り加へて、葛水にて溲れ蒸して、白雪糕の如く切り、日に乾て用う。

◎妙品の部

●(七十三)水前寺卷いも　生にておろし、麵粉少し入れ、棒にとり、水前寺海苔を水に浸して、能く水氣をとり、右の藷をまき、竹皮につゝみ、糸にてくゝり蒸なり。

●(七十四)ケンチエンいも　生にておろし、栗子の針、木耳、皮午蒡、綠豆もやし、稀醬油の味つけ、いり銀杏二ッ割、黑胡麻、右七色まぜ合せ、水に浸けたる豆腐皮を板の上にひろげて、以上のものを四分程の厚さにむらなくしきならべ、堅くまき干瓢にてくゝり、葛の粉の水にて浸れたるを、卷ごめにつけ、これを胡麻油にて煠げ、小口より七八分程に切るべし。

時文

◎芭蕉以前俳諧集　上卷　大野洒竹編纂　博文館版

俳諧文庫の第二編として芭蕉以前俳諧集上卷出づ。收むる處先づ俳諧の歷史を畧述し、頗る有益に、次ぐに俳家系圖、俳諧年表あり、共に文士の好參考書なり。犬筑波集、獨吟千句、新增犬筑波集、あぶらかす、正章千句等、蕉翁以前の俳書のオーソリチーなるものを集む、皆これ俳家の良友なり。

◎伊達[illegible]　渋柿園作　春陽堂版

此小説は、曾て東京日々新聞に連載せられたるもの[illegible]

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

◎伊達政宗　滝柿園作　春陽堂版

此小説は、曾て東京日々新聞に連載せられたるものなるが、政宗の根據、其謀臣片倉小十郎の智略、秀吉の謀策、一女性の苦衷俠心相映じて、讀下快哉を呼ばしむるものあり。蓋し滝柿園著作中の上乘にしてまた大卷なるもの、又近時歴史小説中の上乘なるものなり。

◎列國變局志　肝付兼行譯　春陽堂版

此書署して肝付兼行氏の譯といふと雖も、其實故森田思軒氏並に水上梅彦氏の譯述にかゝるものなると、思軒氏の死後に知り渡りたり。原書は英國海軍中將コロム氏外數名武人の結構したる假作小説にして、一千八百九十二年バルカン半島に於ける露墺の衝突より、歐洲の大戰争を惹起したる筋なり。小説なりと雖も、歐洲の軍備、人物、國民の狀態等は、事實を根據としたるものなれば、又以て歐洲政治界の局面を知るに足るべしといふ。

◎新著月刊　第八卷　東華堂版

『ふたつ蝶』兄妹の心中談、もと獣行の爲めに非ずして、奸人の惡策に害せられたる筋なり。水谷不倒の作、見るに足る。

『五分時間』風葉の作、凝り過ぎて、支離滅裂に終る。

『公曉』高安三郎作の脚本、この脚本には公曉並に實朝二人の主人公あり、全體より見て、よく出來上りたりとは思はれず。

◎日の出島　高砂の卷　春陽堂版

弦齋の日の出島報知新聞に連載せらるゝと殆ど二年にもならんとして、なほ何時を限りとも見えず。濟んだ小口から一冊づゝの美本に出版せらるゝと既に第三卷に及ぶ。盛んなりといふべし。お金夫人の名、流行語ともならんずる勢すさまじきものなり。我等も近頃大の弦齋贔負となりたり。多情多恨を一遍通り讀み下すよりは日の出島三册を讀む方、苦心もなきとは、格別の小説も出ぬ此節には、却て之を喜ぶなり。

◎女學文壇　十一月上半期

◎佛教と女子
◎基督教夫婦論
◎家庭の社會的意義（石川喜三郎）
◎夫婦論
◎印度の社會生活及道徳（かニ氏）
◎女子教育の原因（三輪田眞佐子）
◎またも女子の高等教育につきて
◎女學生前途の心得（加藤弘之）

教友雜誌第二百九十號
眞理第九十二號
裏錦第六十一號
宗教第七十三號
女子の友第十號
女鏡第百四十四號
教育公報第三百三號

片々

◎眞言宗　嚢に僧侶の肉食妻帶を公許するや、一時佛界この論を以て囂びすしく、多くは吾人は肉食妻帶の解禁が今日の死佛教を化して活佛教たらしむるものなりとの辯護に盲語するさへあり、然るに禪宗の如きは現狀はともあれ、其眞意は頭陀行の苦楚を舐めんとする者、されば其主義の論者が肉食妻帶の制戒に至りては、僧侶道徳の根本にして、決して移易變改すべからず、この大法を破らんか、遂に佛教をして亡滅に歸せしめざれば止まざらんと必せりといふは、當然の事なり。

◎然るに　吾人はおもへらく、今日の僧侶輩をして、到底肉食妻帶の禁戒を嚴守せしめんと、得て望むべからず、無乃この禁を解き去りて、而して今日の佛者の一大汚點として認めらるゝものを、宗旨の上より洗ひ滌むべし。肉食妻帶もと人の罪に非ず、故に凡俗守り難きの戒を立つるは、即ちこれをして佛罪たらしむる所以なり。今の僧侶は皆な凡俗なり、彼等如何ぞこの戒を守るに堪へんや。而して佛教の爲めに思ふ。今日の凡俗なる僧侶以外に、出家なるものあるべし。其出家者は眞に家を出でゝ、妻子を忘れ、以て德を脩め、道を行ふなるべし。彼等は戒を待たずして、自ら肉食妻帶を厭ふものなり。彼等は皆必要の爲めに如斯くす。釋尊以下羅漢の徒、其聖なるものは皆此程の眞出家者なり、彼等はこの戒を守るが爲めに幾百千回の苦心鍛錬を重ねしものなり。然るに聖者なほ難しとするの難行を以て、これを戒法と立てゝ後の凡俗なる僧侶に強ひんとするは極めて難いかな。

◎日本全國　電柱の總數三十三万三千五百八十一本、東京市街の延長里程は凡そ三百里、平坦なる道路を造くるには三千万圓を要すといふ。

◎モハメツド曰く　神は何ものよりも離婚を悪み、何ものよりも奴隷の解放を愛

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

すと。又曰く誰にても離婚を决行する前には三ヶ月の猶豫をなさゞるべからず。此時期に於て、双方とも善く熟慮し、若し能ふべくば、尙ほ神聖なる契縁を繼續するに有り。

◎日蓮大士曰く、此經（法華經）を持つものは、一切の女人に過ぎたるのみならず、一切の女子に超たりと見えて候。又曰く箭の走るとは弓のちから、雲のゆくとは龍の力、男の仕業は女の力なりと。

◎婦人の權利は衰退す　新評論のフレデリック、ボイルは「婦人の衰退」と題して論じて曰く、婦人の權利は上古より次第々々に衰へ行くものなり、希臘ローマの古代に在りて、婦人の勢力ありしを、今に倍するものあるは、誰しも知る所なるが、其以前にはなほ〳〵勢力ありしものなり。ベダスに於ては、神聖なる儀式に男女同等の權力ありしを記載し、埃及にても亦然り。又教授セースの言ふ處によれば、耶蘇誕生以前四千年の古に在りては、アガテアにては、社交一切の事、女子によりて决せられ、女子の權力ありしと、今日の男尊女卑の正反對に出でき。其記す處も、男女と書せずして、女男と記す、（記者曰く今の西洋人が演說の冒頭に淑女紳士といふは如何）又男子の女子に對し不敬の所爲あれば女子は男子を河中に投すべしの語ありと。

◎兩性の交際　一たび米國に遊ぶものは、男女交際の美しきを見て、我國にも此事の淸らかに行はれんとを望む。此歐米主義流行せし時代に、一派の人は、叨りに男女交際などゝ狂ひしも之が爲めなり。去れども此等皆失敗に了りき。今日我社會は一般に男子に女子を知るの敎育なく、女子に男子を知るの敎育なし。今にして米國流の男女交際は得て望み難いかな。佛敎者鈴木大拙頃日米國に遊んで切に其國兩性の交際の美を羨んで、これを我國に見んとを望む。其志や可なりと雖も、未だ及ばざる處あり。（近刊日本人を見よ）

◎小學校の女生徒　新聞紙傳へて曰く小學校女子敎育の發達は近來著しき進步を呈せしのみならず、昨年に比し本年は女生五割方の增加なりと云ふ。

◎奇妙なる結婚媒介法　米國シカゴ市にては、近頃男女の愛情を撿査し、婚姻の媒介を爲す骨相家の組合創立せられたる由なるが、今其組織の次第を聞くに、同組合は二三週間目毎に結婚媒介式とでも稱すべき一つの集會を催ふし、配偶を求むる數多の靑年男女之れに集まり、順次該組合の役員たる骨相家の前に其頭を差出だして、頭蓋の撿査を受け、而して骨相家は頭蓋の形狀によりて、彼等男女の特性氣質を判別して、精細に之れを比較し、且つ種々協議を凝らしたる後、求婚男女中氣質習癖の合へるものを相對照して、一の姓名錄を作りて、之れを報告し、百方勸誘して婚儀を結ばしむるものにて、先日開かれたる結婚媒介式にては六十人の男子と四十人の女子之れに出席して、骨相家の試驗を受けし由にて遠からず數多の骨相學的結婚者生ずべしと云ふ。斯の如くにして結婚したる夫婦の成行に就ては同會に於て嚴に注意すべければ、學術上に裨益する所多かるべしと云ふ、

◎西班牙政府　フヒリピン島反亂の巨魁リザルの寡婦の首に百金を賭す。寡婦カメノールは日本に遁れ來りて、竊に再擧を圖らんとすといふ。

（國民新聞）

◎やまと新聞　此頃「家庭のたしなみ」なる一欄を設けて、切りに家庭談をものす。記者は「日本の家庭」にて、屢其名を見受けたる林怨哉氏なり。同新聞の讀者の爲には、其記事やゝ六ヶ敷事はあらずやと思はるゝふしあれども、先は目出度し、總じて此節の新聞紙は、家庭の事に注意するやうの傾向を示したるは喜ぶべし。

◎又多くの新聞紙　にて善行美事談を募るの擧あり、每日新聞、中央新聞の如き之れなり。これ民俗頽廢の甚だしき今日、之を匡救するの目的に出づと、賀すべし。

◎子殺多し　近來東京府下の出來事に血醒き談の多きは、いとゝいまはしきとなるが、此頃に至りては、子殺の慘話每日の新聞に見ゆるが如し。これ米價及諸物價の騰貴に關係非らずんばあらず。由來米價の騰貴は、自殺者の數を增加せしむ。吾人はこの窮迫する年の將に暮れなんとするに當りて、多くの自殺者殺人者を生ぜんとを恐る。

◎支那の孝婦　は肝を割て姑に進めしなり、福島の孝婦、肌を以て姑を暖むもあり、これ近日の話。

◎東京府下の細民統計　目下府下に於ける人力車營業者の內他より車を借り受くる者麴町區六百七十人、神田區二千五百七十三人、日本橋區八百十九人、京橋區千三百五十二人、芝區二千八百四十四人、麻布區千三百二十九人、赤坂區七百卌九人、四谷區八百五十五人、牛込區千三百六十七人、小石川區千百四十五人、本鄕區千六百三十三人、下谷區二千三百十一人、淺草區三千三百四十六人、本所區千九百五十四人、深川區千八百一人、品川二百三十四人、新宿四百十六人、板橋百二十三人、千住七百二十八人、小松川六十三人、町田三人、府中十八人、田無十五人、靑梅二人、五日市十二人、計二萬六千三百一人、又其日稼ぎの貧民中紙屑買三千百零二人、同拾六百七十八人、下駄直し七百八十三人、硝子破買二千八百六十九人、計七千四百三十人此他羅宇仕替緣日商人等を合算すれば其幾萬なるを知るべからず此等は追々冬期に向ふも一枚の綿入を算段するは愚かのと煎餠布團又は鍋釜等を朝入質しては夕に受出し辛くも露命を繼ぎ居るものなりといふ。

（時事新報）

◎新年着流行品

●婦人の着物　上流社會のものにて、地は濱縮緬、鹽精、紋鹽精等（これは三枚重ねの物と知るべし）色は黑又は淺梅鼠、素鼠、鳩羽藤色、紅掛鼠等にして模樣の重なるものは御殿模樣、光琳實來山、四君子其の他四季の花鳥等にして、裳摸樣の

もの七分江戸褄三分なり。縫入れ、縫無しとも半々位、何れも五ッ紋大流行にして、紋の大さは八九分の處多く、若し三ッ紋なれば七分五厘より八分位までとす、三枚重ねなれば、上着黑色なれば、下着は灘鼠、上着鼠なれば三枚重ねとも同じく、或はボカシ縫入れ縫無し等なり。これは先づ奥方向にして直段は八十圓より百二十圓位迄。

●男羽織　無双羽織は總て黑にして、鹽瀬、羽二重　縮緬、京七子、八王子七子等なり、大抵五ッ紋にして大さは八分より一寸一分まで、肩裏の摸樣は、歴史畫及び風俗畫或は風景を寫せるもの最も流行す、例ば金閣寺、忠臣藏、元祿踊り、大極殿、若くは富士山、雨後の月、三笠山、湊川三略讓、雨中の筏舟、桐に鳳凰等なり。次に縞羽織は意氣向には唐棧織を第一の流行とす。これに次ぐは、甲州紬、結城紬等をよしとす、胴裏は紺甲斐絹、鼠無地の緞子等なり。

●男帶　紋博多、オランダ織、綴珍、綾綴等流行の第一位に居る、八圓より十八圓まで。

●女の下着　上着に風通、市樂位を着たる時の二枚下着には、小紋お召、風通、更紗及び友仙縮緬、更紗七子、綾胴は友仙縮緬、丸糊縮緬、綾縮緬板〆、紋縮緬等にして、三十圓前後のものなり。

◎田舍の奢侈流行　今年の呉服店冬着賣出高の去年にも優りて多額なりしは、田舍客の出多かりし爲めと　田舍者が爭ふて東京の越後屋、大丸等に出て來て、冬着の買入をなすとは、これ近年までも少かりしとならん。奢侈贅澤の風、田舍間に流行するを以て知るべし。而してこれは米價の騰貴につきて、農民の金融の宜しきによれり。農民は由來、米の澤山に出來て、價のやすきよりも、不作でも價の高き方が、仕末がよしといふなるに、此頃の米況は、眞に有卦に入りしものなるべし。然れどもこの奢侈の流風、終に荒廢流離を以て農民を苦しむるに至らんと、殷鑑遠きに非ず、明治十二三年米價高値なりし其以後の數年間に在り。

◎米價の今昔　新米出荷の時節に成ても、不相變米價は高直を持して下らず、正米一石十五圓に近き高價に在るが、明治以前にて米價の尤も高かりしは、近くは天保七、八、九年に亘れり饑饉の際にして、當年の米價は百文に付白米二合三勺、即ち六貫四百文替へ一兩に付、一斗四升七合三勺なり。今當年の金一兩を今の二十圓にて換算すれば、一圓に付七合三勺の割合なりといふ。

◎米價の騰貴　につれて、臺所の經濟の必迫の勢となり、麥食次第に增加し、爲めに麥價一圓につき一斗四升となれり。これ一二三年前あたりの一等米の價格なり。細民等此に於てか、麥飯すらなし得ず、補食を小麥粉または甘藷に求めつゝあるが故に、甘藷の價また非常に騰貴して、概して二割以上の高値を示し、なほ上進の有樣なりといふ。

時報

◎精勵の女工賞を受く　此程熊本市に於て第六回職工獎勵褒賞授與式を擧行せしに、知事代理、警部長、技師等市の名譽職員各工場主立會の上、各工場の男女職工優等者百數十名へ賞與を授與せし後、特に精勵の廉を以て女工菊岡ぎんに左の功勞證書を授けたり。

飽託郡大江村向榮社工女
菊岡ギン

明治十三年四月入社平素品行方正能く社則を守り社長の命に服從し專ら業務に精勵し工女の摸範となり傍ら教師の補助を爲し機業に從事する既に十八年の久しきに及び洵に奇特とす依て職工獎勵會褒賞授與式を行ふに膺り玆に其功勞を賞す

熊本市長　辛島格

◎婦人製作品觀進會　來年四月京都博覽協會にて婦人製作品觀進會を開くよし。其目的は廣く本邦婦人の製作せし美術工藝品を蒐集し、公衆の縱覽に供するに在りて、出品の內繪畫、彫刻、織物、絞纈、刺繡、裁縫、押繪、造花の九種は、必ず婦人の製作たるを要し、小兒保育品等は男子の製品にても妨なしと云ふ。

◎婦人共立育兒會　同會は、もと婦人の慈善心に訴へ、紙屑、ラムプの毀れ等を賣りたる金錢を貰ひ受け、之を以て養育院の病兒を醫科大學に托し、療治を受けしむる組織なりし由なるが、養育院は既に相應の資本を有して、殆んど獨立し得るの姿となりしかば、育兒會は爾來市中貧民の病兒を扱ふ事とし、三千餘の會員を率ゐて、着々歩を進め、終に一大育兒病院を設立して、大に慈善の目的を達せんとする計劃なりといふ。

◎產婆監督　現今本邦の開業產婆は、三萬五千餘名にして開業醫に比し、僅かに五千餘名の少數なるが、其監督に就ては地方廳のこれに干與するのみにて、殆ど放任主義と言ふも不可なく、之を歐米の助產婦制度に比するに、彼れは嚴重なる規律の下にあり、畢竟產婦の難易に基く者にして本邦人は餘り助產婦の必要を感ぜざるに依る由。目下內務省にては其監督制度に關し詮議中なりと聞く。

◎生蕃の錦木　其昔陸奥狹布の郡にありきと聞ける、錦木のこれにも似たる事柄の、今なほ臺灣のあら／＼しき生蕃の間にあると聞くこそゆかしけれ。凡そ生蕃の結婚は其種族に從て相異る所あれども、男女先づ意を通ずるに始まり、然る後女家の父母に許を受けて、新郎新婦初めて同穴の契を結ぶを例とす。今生蕃の一種牡丹社蕃人の結婚に關する風習を聞くに、男子思ふ所の女子あれば先づ、直接

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

に其意を女子に通じ、然る後其女子の居住せる家の前に薪幾束さ水を盛りたる水桶さを夜中人知れず備へ置き、翌朝其處に至りて二品の納められたるや否やを窺ふ。二品納められば女子の父母其女を爾に嫁がしめ、爾さ幾久しく添ひ遂しむる事を諾すさいふ意を表したるものなれども、若し其二品納められずして、依然舊のまゝなるときは父母之を諾せざる事なるを以て、男子の失望落膽言はん方なし。去れど一旦思を通じたる上からは、其まゝ指を啣へておめ／＼引込むは、彼等の性さして欲せさる所なれば、此戀飽まで遂げざるべからずさ、猶二三日の間は魂氣能く引續きて水桶に水を盛りかへ薪を幾束さなく以前のものゝ上に積み重ね、斯くて父母の心を動かさんさ努む。其熱心に感じて間々承諾するに至るもあれども、多くは父母の決心當初の如く頑さして應ぜざるを常さす。事玆に及びては男子の意地も亦甚だ強く、遂には隙を見て竊かに女子を誘ひ出し、我家若くは知己の所に忍ばせ、夫より手を代へ品を代へて、女子の父母の心を動かし其承諾を得んさす。先づ其第一着手さして最も親密なる友人に此旨を打明かし、友人を媒介者さして女子の家に赴かしめ、頻りに談判を爲さしむるなり。斯くても父母の承諾せざるときは、二股長さいへる社中の長老に請ひ斡旋せしむ。熱心斯の如くなれば再三の要求に應ぜざりし女子の父母も此時には大抵首を傾け、男子の本懐玆に始めて遂するを得たる次第なれども、斯くても猶ほ承諾せざるときは、女子を盗み出し欠落することさあれど、生蕃は無智野蠻なるには似もやらず。斯る不義不正公けならぬ事は爲さず、否社中に於て斯る事は不文の規律さして爲し難き所なるを以て、思ふ所の女子既に手に容るも、男子は其の父母の承諾を得ざれば、未た之を婦さして夫婦の習を爲す能はざるなり。此に於てか最後の手段さして大股長なるものに訴へ、大股長は直ちに命令的に使者を以て女子の父母を召喚し、種々事情を盡して、強壓的に遂に父母をして餘儀なく首肯せしむるに至る。然れども這は稀にある所にして、多くは其間に於て父母の意柔らぐものさす。女子の父母諾意を表したる後、吉日を卜して結婚の式を擧げ蕃酒を飲み、蕃歌を唄ふて目出度く／＼さ手を拍つなり。亂暴のやうにて中々義理堅き所あり面白き結婚法さ謂ふべし。

◎金谷塾主の死去　東京飯田町に金谷女塾を開設したる金谷てい子は、開塾後間もあらざるに、本月四日病の爲死去せられたり。

◎老爺道　土佐國高川村和田喜助翁は、自ら資産を擲て四里程の新道を開鑿して、車馬の通行に差障へなからしむ、里人之を德さし稱して老爺道さいふ。

◎ドクトル中村安子　嘗に名高き女齒科醫中村安子氏は今般麹町區内幸町一丁目三番地(華族會館前角)に治療所を設置したり。

◎土佐の女禮式會　土佐の婦人社會には、小笠原流禮法講習の事、頗る流行せるが如く、高知市には其會の本部さ見ゆるがありて、郡部にも處々に其支會らしきものの存在せり。現に本月十四日高知なる本部にては二三十名の卒業生を出して、其中より支部の教員に派遣せられしものもありさいふ。

◎二十年間貧民教育に從事す　芝新網町さしいへば、東京の貧民窟中屈指の一大集合處なるが、此處には尋常の小學教育など施し得らるべきもなきが、然るに明治九年以降今日に至る二十年間、身を此界に投じて、貧兒教育に從事したる一人あり、其名を中村善次郎氏さいふ、當年七十二歲の老翁なり。同氏は維新以前は上士の家なりしが、落魄して新網町に住居するに至りしに、同地子弟の無教育なるを嘆して、子弟を招き集めて、五厘寺子屋を始め、爾來子弟を教育すること今日に至る二十年間、爲めに讀書算術にやゝ通じ得たる生徒五百人を出すに至りたりさいふ。氏の法の如きは眞によく貧民教育の道を得たるものにして、其功績頗る大なりさいふべし。なほ同處の差配人の一人にて正田匡氏さいへるも、近年來、寺子屋教育を行ひつゝありさいふ。

◎角筈村衛生園　故ツルー夫人の遺意に成れる衛生園は今般いよ／＼原富子、岡山敏子、岡見京子、渡瀨カメ子、加藤秋子、タムソン夫人、田村英子、津田梅子、ミス、ミリケン、世良田ノブ子の十名を委員さして、來る二十七日午後二時より、開園式を擧行する由。

◎新式唱歌　高等師範學校音樂教官鈴木米次郎氏は從來學校唱歌の教授法に就て取調べつゝありしが此程トニックソルフアー唱歌教授法の我國小學兒童に適切なるを實驗せられ既に該教科書の編纂を遂げられたる由聞く所によれば從來の教授法より一層進歩せしものにて風琴を使用せず自然に發聲せしむる等全く新式にして斯道の人は直接に同氏に質問せらるれば裨益多かるべし猶同氏は近日中、小學校唱歌取調べのため愛知京都大阪兵庫の二府二縣へ同校より出張を命ぜられたる由。

◎海外女報

◎米國紐育州　ミッドルトン市のマレッタ、スラール夫人さいへるは、此程公立圖書館創設費さして三万弗を寄附して、其設置方針及事務等は擧げて之を市公民會に委任したり。

◎家政學校　米國ボストン市の婦人教育及勞働會は、同市に家政學校設立の事に決し、既に其校舍の準備成りて、其十一月一日より開校したり。

◎一女子初めて瑞典國に大學教授さなる　エルザ、エスチエルソン孃さいへるは、此程瑞典國ウプサラ大學の民法講座を擔任したり、同國にて女子の大學教授さなる、此人を以て嚆矢さなす。

◎市俄高府　の故スチッケチー夫人は、其遺產の内同市美術協會及聖ルーク病院に七萬五千弗宛を、なほ同市各種の慈善協會に、多額の金員を寄附したり。

◎リデイア、ブラッドレー夫人　の寄附金によりて米國イリノ井ス州ペチリス市に設立せられたるブラッドレー工手學校は、十月八日其開校式を執行したるが、同市未曾有の盛會なりしさいふ。

故塙保己一編纂

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

故 塙保己一編纂

經濟雜誌社飜刻

群書類從

再版豫約廣告

弊社曩キニ豫約ヲ以テ本書ヲ出版シタリシカ、當時史學未ダ盛ナラズ豫約者未ダ多カラザリシヲ以テ、出版部數ハ僅ニ六百七十部ニ止メタリ、然ルニ近日ニ至リ本書ノ需要大ニ增加シ、賣買價格四拾圓以上ニ至レリ、將來ノ欠乏知ルベキナリ、弊社方ニ『續群書類從』出版ノ計畫ヲ爲セリ、故ニ先ヅ本書ヲ再版シテ、然ル後之ニ及ハントス、仍テ更ニ豫約ヲ以テ本書ヲ出版ス、願クハ大方ノ賛成ヲ得テ其目的ヲ達スルヲ得ン

第一　此書部門左ノ如シ

〇神祇部（七十種）〇帝王部（三十六種）〇補任部（二十五種）〇系譜部（十八種）〇傳部（二十一種）
〇官職部（八種）〇律令部（六種）〇公事部（五十九種）〇裝束部（二十一種）〇文筆部（三十四種）
〇消息部（二十種）〇和歌部（四百十種）〇連歌部（九種）〇物語部（二十種）〇日記部（八種）
〇紀行部（三十九種）〇管絃部（二十一種）〇蹴鞠部（八種）〇鷹部（十種）〇遊戲部（十七種）
〇飲食部（十三種）〇合戰部（六十五種）〇武家部（七十七種）〇釋家部（七十八種）〇雜部（百七十八種）
◎部門合計二十五　◎書目合計一千二百七十　◎原本冊數六百六十五

第二　此書飜刻本四六形洋裝全十九冊ニシテ紙數二萬一千頁、今回再版ニハ之ヲ全十八冊トナシ、製本躰裁ハ前版ノ本書並ニ國史大系ト同シク色クロース表紙金文字入トナス

第三　此書定價金參拾圓ニシテ豫約價左ノ如シ

但シ東京市外ハ別ニ遞送料ヲ申受ク

一　本年十一月中一時入金ノモノ　金拾五圓
一　本年十一月及ビ明年五月ノ二回ニ八圓宛入金ノモノ　金拾六圓
一　本年十一月ヨリ明年十月ニ至ルマデ毎月金壹圓五拾錢宛入金ノモノ　金拾八圓

第四　本書ハ明年二月ヲ以テ第一輯ヲ出版シ爾後續出同年十月ニ至リテ完結ス

第五　豫約期限ハ本月三十日マデトス

但シ豫約御申込アルモ同日迄ニ豫約金御拂込ナキトキハ無効トス

第六　本書再版見本御入用ノ方ハ郵劵貳錢投セラルベシ

明治三十年十一月

東京市京橋區彌左衛門町七番地
（電話番號本局千二百二十三番）

合名會社 經濟雜誌社

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

明治廿五年三月十五日遞信省認可

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY